



ジェットストリーム

JET STREAM

ROMANTIC CRUISING



ジェットストリーム

JET STREAM

ROMANTIC CRUISING





JET STREAM

憧れを映す窓 4

阿木燿子

ムード音楽の楽しみ 6

浅井英雄

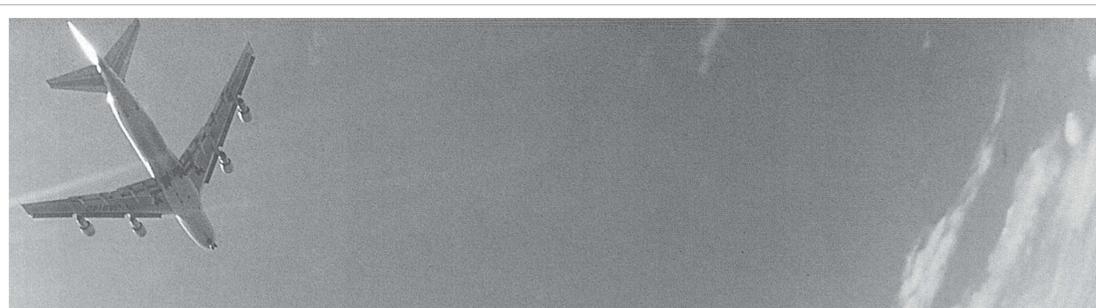
ジェットストリームの思い出 32

馬場葉子

大空への夢 30

アーティスト・プロフィール 33

曲名索引 38



CONTENTS ✈

[曲目解説]

CD 1 *Bon Voyage* 愛・旅立ちの時 8

CD 2 *Bonjour, Paris!* ボンジュール! パリ 10

CD 3 *Street Café* 街角のカフェ 12

CD 4 *Lovers in Europe* 恋人たちのヨーロッパ 14

CD 5 *Travel Back in Time* 時の旅人 16

CD 6 *Like a Dream* 旅・夢の途中 18

CD 7 *Night Flight* ナイト・フライト 22

CD 8 *Oasis* 摩天楼のオアシス 24

CD 9 *Summer Resort* エンジョイ! リゾート・アイランド 26

CD 10 *Memories* 美しい旅の思い出 28

憧れを映す窓



阿木燿子

私の母は窓際族である。乗り物に乗るとまず、窓際の席を確保しようとする。ボックスシートの電車の場合は、扉が開くと同時に小走りに、窓のある方に駆け出してゆく。バスはなぜか後部座席が好きで、そこに座り、後ろ向きに外の景色を見るのである。

思春期の頃、私はそんな母の子供っぽい癖が妙に恥ずかしかった。時折、母は座席を2つ確保し、こっちこっちなどと手招きをするのだが、そんなときは一緒に外出したことさえ、悔まれるのである。

その反動か、私が一人で乗り物に乗るときは、通路側の席を選ぶ。これは映画館や劇場に行ったときも同じで、中央の方に入り込むと、何だか落ち着かない。左右人に挟まれると、自由に息ができない気がする。両腕を警察官に取られた犯人のように、身動きができない感じだ。一種の脅迫観念だとは思いますが、今でもその思いから逃れられない。

私が窓側の席が苦手なもうひとつの理由は、トイレが近いせいだ。これもかなり神経的なものがあるのだが、行きたいときに行けないと、不安である。催してきて、いざというときに、隣りの人が足を大きく広げて腑をかいいたりしていると、困ったなと思う。起こすのは申しわけないし、さりとて我慢するのも辛いし。飛行機の長時間はとくに、もしそうになったら、と考えるだけで、かなりのストレスだ。

そんな私だが、一度だけ窓側の席に座ってよかったなと思ったことがある。それは初めての海外

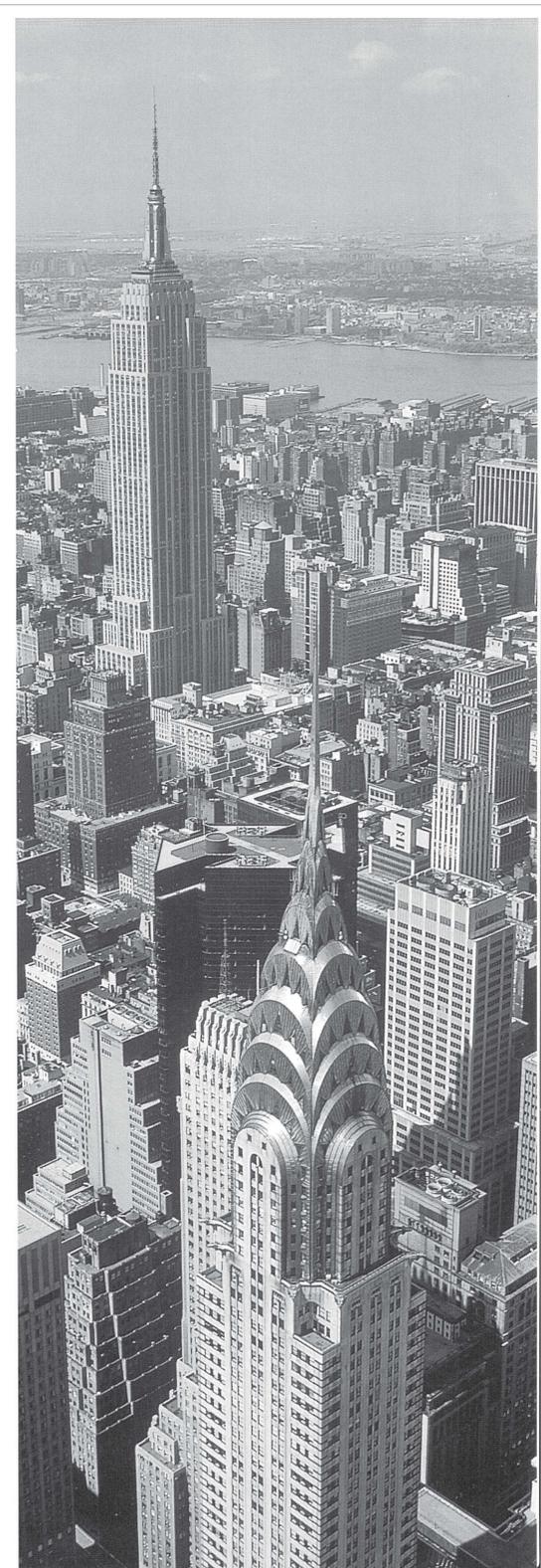
旅行でニューヨークに行ったときだ。

20年前、主人と私は幸運なことに、彼のバンドのために書いた「港のヨーコ・ヨコハマ・ヨコスカ」という曲で世に出ることができた。レコードが百万枚を突破したところで、音楽出版社がバンドのメンバーと私たち夫婦に、ニューヨークの旅をプレゼントしてくれた。何しろ海外旅行は初体験である。それも憧れのニューヨーク。飛行機に乗ると、私は子供のように窓に顔を近づけて、一睡もせず外の景色を見ていた。

出版社のプレゼントとは言っても大人数ということもあって、エコノミー席だ。さして足が長くない私でさえも、狭く感じるシートに腰かけながら、私は飽きもせず空を見ていた。水平飛行になれば眼下に雲が見えるだけで、景色に変化はない。それだけにニューヨークのケネディ空港に近づいたときは興奮した。自由の女神にもうすぐ会えると思うと、胸が高鳴った。そして降下し始めると、ぐんぐん大都会が近づいてくる感じで、思わず息を呑んだ。

思えば飛行機の窓は面白いものだ。切り取られた空が、私たちの憧れを映している。それにさして興味が示さなくなったということは、それだけ旅慣れたということなのか、童心を忘れてしまったということなのか。

もし後者なら、ちょっぴり反省。母のように、いつまでも窓際族でいる無邪気さも、人間として大切なことかも、などと思ってもみる。



浅井英雄

ムード音楽の楽しみ

ゴージャスなポピュラー名曲の宝庫

欧米のスタンダード曲をはじめ、映画やミュージカルのナンバー、世界のチャートににぎわしたヒット曲、それにラテン、タンゴ、シャンソン、カンツォーネ、さらに、クラシックの名旋律まで、ありとあらゆるジャンルの音楽に、美味な衣をつけた色彩華やかな演奏で聴き手を魅了してしまう——これが「ムード音楽」なのです。

ムード音楽ほど贅沢な雰囲気をもった音楽は、ほかにないのではないのでしょうか。

このCDセットでは、世界のポピュラー名曲がムード豊かな美しいオーケストラ・サウンドにのせてあなたを楽しませてくれます。

旅の夢をロマンティックな音楽とともにふくらませてくれる、FM放送の人気長寿番組「ジェットストリーム」は、城達也さんの語りで綴って、じつに27年間もつづきました。その「ジェットストリーム」の旅を、もう一度あなたの心の中に広げてください。ポピュラー名曲の宝物をひとり占めしたような気分にしてくれるのが、うれしいかぎりではありませんか。

超一流の名アーティストたち

この「ジェットストリーム」のCDに登場するアーティストは、超一流の豪華メンバーばかりです。まずは、日本の多くのファンを楽しませつづけているフランスのポール・モーリア。彼のサウンドに対するチェックはきびしく、総勢38名からなるオーケストラを率いて初来日した1969年には、チェンパロ

をステージの前面にすえ、ついでギターとドラムスとサクスを配し、中間列にトロンボーン、トランペット、ベースを並べ、最後列にストリングスを置くなど、楽器の配置にも気を配り、コンサートもレコーディングのときと同じようにサウンドの工夫に余念のなかったのが印象的でした。

イギリスきってのオーケストラはマントヴァーニ。ストリング・セクションを3部に分け、音を少しずつずらしながら演奏するスタイルが、まるで滝が流れ落ちていくような動きを見せるところから“カスケイディング・ストリングス”と呼ばれ、それがマントヴァーニ・オーケストラの特色となり、トレードマークにもなりました。マントヴァーニは1950年代にムード音楽の隆盛を招き、人気マエストロとなったのです。

さらにイギリスではフランク・チャックスフィールドやスタンリー・ブラック、ラテン・ムードのエドモンド・ロスらがつづき、フランスからはミッシェル・ルグラン、ドイツではタンゴのアルフレッド・ハウゼ、そしてベルト・ケンプフェルト。ケンプフェルトは、ハンブルクで無名時代のビートルズを発見したプロデューサーとしても有名です。

アメリカからは『スター・ウォーズ』で知られたジョン・ウィリアムズ指揮ボストン・ポップス・オーケストラをはじめ、グレン・ミラー、ハリー・ジェームスなど歴史をもったオーケストラが、絢爛たる演奏を繰り広げます。

こうした贅を尽くしたアーティストたちが、「ジェットストリーム」を彩っていきます。

BGMからブームへ

ところで、そもそもムード音楽の流れを追っていくと、それは第二次世界大戦中にまでさかのぼることになります。そのころ、イギリスでは工場や職場でBGM(バックグラウンド・ミュージック)が効果をあげていたのです。仕事場に軽い音楽を流すことで働く人たちの気分をやわらげ、仕事の能率も高め、生産向上に大いに役立っていました。そうしたBGMがムード音楽に発展していったのです。

1950年代に入ると、それまでオールド・ファンを楽しませていたダンス音楽がヒット・チャートから消え、ロックンロール時代へと移っていきました。1951年にアメリカでマントヴァーニの「シャルメーズ」が大ヒットし、それがムード音楽・ブームを招くひきがねとなりました。ダンス・バンドと入れ代わるように登場してきたのが、ムード・オーケストラであり、ムード音楽だったのです。

オーケストラ・アレンジが生む楽しさ

オーケストラやソリストたちの華麗な演奏に酔うことも、ムード音楽の大きな楽しみですが、このジャンルの定番となった名曲には、ムード音

楽ならではの“楽しみ”があります。たとえば、「恋はみずいろ」がそうです。

ヨーロッパの主なテレビ局が参加して催される年に一度の歌の祭典、ユーロビジョン・ソング・コンテストは、1967年に第12回目を迎えました。「恋はみずいろ」は同コンテストで、ルクセンブルク代表のヴィッキーが歌って第4位に入賞。彼女は数か国語でレコーディングしましたが、世界的な大ヒット曲にはなりませんでした。

そこで、編曲者のポール・モーリアは、この歌をインストルメンタル曲として取り上げ、ストリングスの上に彼自身のチェンパロをのせた斬新なサウンドにつづんで演奏しました。この「恋はみずいろ」はたちまち大ヒットし、1968年2月、5週間も全米ヒット・チャートのトップを独走したのです。こうしたところにも、ムード音楽の“楽しさ”があるのではないのでしょうか。



思い出話をしよう。

何時が夏の終わりが、知るよしもなく、
気づけば、^{あざやかな} 踏躑と日暮れの秋風の道を……。

そんなことがあってから、私は用心深くって、

日毎、人がコーヒーに入れる砂糖の数まで数えるようにしてきたが、

その為にかえて、恋人の心変わりを、早めたかもしれない。

ロダン美術館の、秋の庭に木の葉を踏みながら、彫刻相手の独り言して、

つまるところ恋は戻らない、灰色の空模様様というのだ。

Bon Voyage

*CD(全10枚)に収録のナレーションと、曲目解説に
掲載の詩は、一部異なる場合があります。

— 愛・旅立ちの時 —

1

CD

曲目解説

1 ミスター・ロンリー

フランク・ブルセル・グラント・オーケストラ

1964年にポビー・ヴィントンが歌い、全米No.1ヒットになったオールディーズ・ナンバーです。70年になってリバイバル・ヒットとなったソフト・コーラス、レターメンの歌で記憶されている方も多くことでしょう。ポビー自身とジーン・アランが、62年のアルバム「Roses are Red」の1曲として作詞作曲したものがオリジナル、そして、「わが」番組「ジェットストリーム」のテーマ曲になったことはあまりにも有名です。

2 愛と青春の旅立ち

ポール・モーリア・オーケストラ

1982年の同名アメリカ映画（監督テイラー・ハックフォード、主演リチャード・ギア、デブラ・ウィンガー）の主題歌で、ジョー・コッカール&ジェニファー・ウォーンズが歌いました。

全米No.1ヒットはもちろんのこと、アカデミー主題歌賞、東京音楽祭のグランプリ他、数々の栄誉を受けたドラマティックな佳曲です。作はウィル・ジェニングス（詞）とジャック・ニックチェ、パフィー・セントメリー（曲）の3人。

3 一晩中踊れたら

マントヴァーニ・オーケストラ

1956年のミュージカル『マイ・フェア・レディ』の中で、花売娘のイライザがヒギンズ教授と踊った余韻に浸りながら歌う喜びの歌。アラン・ジェイ・ラーナー（詞）とフレデリック・ロウ（曲）が作りました。バーナード・ショウの戯曲『ピグマリオン』をミュージカルにした傑作で、64年にオードリー・ヘップバーン主演で映画化されました。日本で最初に上演されたブロードウェイ・ミュージカルでもあります。

4 恋人と呼ばせて

マントヴァーニ・オーケストラ

1910年に出版登録されたワルツ調のスイート・ナンバー、日本でも古くから人気があります。作はベス・スレイター・ホイットソン（詞）とレオ・フリードマン（曲）で、52年になりMGMミュージカル映画『百万ドルの人魚』で使われ、リバイバル・ヒットしたこともあります。また、ビリー・ヴォーンお気に入りの曲でもありました。

5 星に願いを

フランク・チャックスフィールド・オーケストラ

1940年のディズニーの長編アニメ第2作『ピノキオ』の主題歌で、ネット・ワシントン（詞）とリー・ハーライン（曲）が作りました。コロラビのジミニ・クリケット（“ウクレレ・アイク”）のニックネームで人気があったクリフ・エ

8 愛のワルツ

マントヴァーニ・オーケストラ

1930年にガス・カーン（詞）とウェイン・キング（曲）が作り、ウェイン楽団のバンド・テーマとして親しまれてきた曲です。ウェイン・キング（1901~85）は、“ワルツ王”のニック・ネームがあったほどワルツのイメージが強い音楽家ですが、ご本人はダンス・バンドのリーダーだけでなく、この曲や「ジョセフィン」などの作曲家として、また、サクソ奏者としても活躍しました。

9 ナレーション：『独り言』

城 達也

10 80日間世界一周

マントヴァーニ・オーケストラ

1956年の同名アメリカ映画（監督マイケル・アンダーソン、主演デヴィッド・ニーヴン）の主題歌で、ヴィクター・ヤングが作曲しました。現在もしばしば耳にする傑作ですが、ヴィクターは、これを遺作として間もなく亡くなりました。死後発表されたアカデミー賞で、この曲に劇映画作曲賞が与えられましたが、オスカーを“代理で”受け取ったのは、製作者マイクル・トッドの当時妻だったエリザベス・テイラーでした。

11 愛のプレリュード

アーサー・フィードラー指揮
ポストン・ポップス・オーケストラ

1970年にカーペンターズがヒットさせた（全米チャート最高位2位）曲としておなじみでしょうが、実は彼らのオリジナル曲ではありません。シンガーソングライターのポール・ウィリアムズがロジャー・ニコルズと、ある銀行のCMソングとして作ったものをカーペンターズがカバーし、大ヒットとなったものなのです。いい曲に遭遇したカーペンターズは、その後スーパー・グループになったのでした。

12 モア

マントヴァーニ・オーケストラ

1961年のイタリア映画『世界残酷物語』（監督ガエルティエロ・ヤコベッティ）のテーマ曲で、ニーノ・オリヴィエロ&リズ・オルトラニが共作しました。もっとも当初は映画のBGM的な曲で、このような曲名が付いていたわけではありません。2年後同映画のアメリカ公開に際し、曲名を付け、ポピュラー・ソングとして売り出すことを考えた人がおり、「モア」が誕生したのです。

13 この胸のときめきを

ポール・モーリア・オーケストラ

1965年のサン・レモ音楽祭で入賞したカンツォネです。そのとき歌ったピノ・ドナッジョが作曲（作詞はヴィト・バラヴィチーニ）しました。翌年、イギリスのダスティ・スプリングフィールドがレコーディング、全米チャート4位のヒットにしたため、彼女の持ち歌の印象が強いかも知れませんが、また、70年になってエル

ヴィス・プレスリーのリバイバル・ヒットがあったことも忘れられません。

14 朝のようにさわやかに

マントヴァーニ・オーケストラ

1928年のミュージカル『ザ・ニュー・ムーン』のナンバーで、オスカー・ハマースタイン2世（詞）とシグムンド・ロンバーグ（曲）が作りました。ポピュラー畑の人も取り上げていますが、どちらかといえばジャズ系の人に人気があるスタンダード曲といえるかもしれません。特にM.J.Q.ことモダン・ジャズ・カルテットの演奏は人気があります。

15 虹の翼

マントヴァーニ・オーケストラ

1954年の同名アメリカ映画（監督ウィリアム・ウェルマン、主演ジョン・ウェイン）の主題歌で、デミトリ・ティオムキンが作曲しました。主人公のジョン扮する副操縦士がいつも口笛でこのメロディを吹いているという設定でしたから、映画を観た人はイヤでもこの曲が頭に入ってしまったようです。アカデミー主題歌賞にノミネートされました。ヴォーカル・ヴァージョンの作詞はネット・ワシントン。

16 虹の彼方に

フランク・チャックスフィールド・オーケストラ

1939年のアメリカ・ミュージカル映画『オズの魔法使』（監督ヴィクター・フレミング、主演ジュディ・ガーランド）の主題歌で、E.Y.ハーバード（詞）とハロルド・アレン（曲）が作りました。当時16歳だったジュディの歌はすばらしく、アカデミー主題歌賞に輝きました。また、ハーバート・スタザードに作曲賞、この映画に作品賞、ジュディに特別賞……とオスカーだけの名作、名曲です。

17 この素晴らしい世界

マントヴァーニ・オーケストラ

1967年にジョージ・デヴィッド・ワイス&ジョージ・ダグラスが作詞作曲しました。ワイスは「好きにならずにいられない」「サレンダー」などエス・ヴィス・プレスリー・ナンバーでおなじみですが、ダグラスは無名——それもそのはず、プロデューサー、ロバート・シールの愛名ということで当時話題になったものです。オリジナル歌唱はレイ・アームストロングで、アメリカよりイギリスで大ヒットした曲です。

18 夢幻飛行

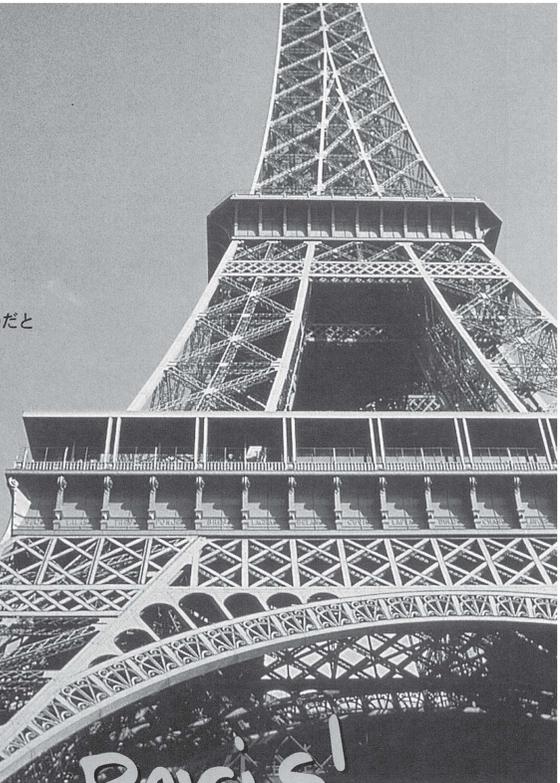
アンドレ・パウアー&

ジェットストリーム・オーケストラ

「ジェットストリーム」の放送5000回記念（=TOKYO FM開局15周年記念）の折に、番組のエンドテーマとして登場した曲で、R.ウェルズが作曲。城達也のナレーションが重なるので、この番組のエンディングにふさわしい余韻が漂います。アンドレ・パウアーのヒット曲となりました。

【宮本 啓】

夏のプラタナスが、手をいっぱいひろげて
カルチェの散歩道を飾る頃は、
パリにいて、とり残された思いの若者も、
旅先の娘から、優しい手紙を受け取っている。
あれはまだリュクサンブール公園の樹々が
灰色の空に黒々とこごえている頃だったが、
ローヌ川の谷を南へ、リオン湾まで
オリーブが実り、糸杉が緑の焰を上げる土地へ旅するのだと
娘が、頬を染めて話したのだった。
春の疾風に誓った旅の途上に、今、娘はいて、
南仏の日なた臭い便りに、思いを託している。
出払って、ひと気ないパリの学生下宿の
夏のプラタナスが、そよぐ窓辺で、
若者は、カマルグの沼地に水しぶきを上げながら、
白馬に乗って日が暮れる娘のことを考えている。
夕映えの空には、熱い思いのフラミンゴの群れも
舞っているのではないかと……と。



Bonjour, Paris!

— ボンジュール! パリ —

2
CD

目録解説

1 ミスター・ロンリー

フランク・フルセル・グランド・オーケストラ
(CD1の解説をごらんください)

2 パリの空の下

ポール・モーリア・オーケストラ
1951年のフランス映画『巴里の空の下セースは流れる』(監督ジュリアン・デュヴィヴィエ、主演ブリジット・オーベール)の主題歌で、ジャン・ドレジャック(詞)とユーベール・ジロー(曲)が作りました。映画公開直後から早くもスタンダード曲のように扱われた、貫禄と雰囲気兼ね備えた曲でした。映画の中でアコーディオンの印象的な音色とともに歌ったのはジ

ャン・ブルトニエールです。

3 恋はみずいろ

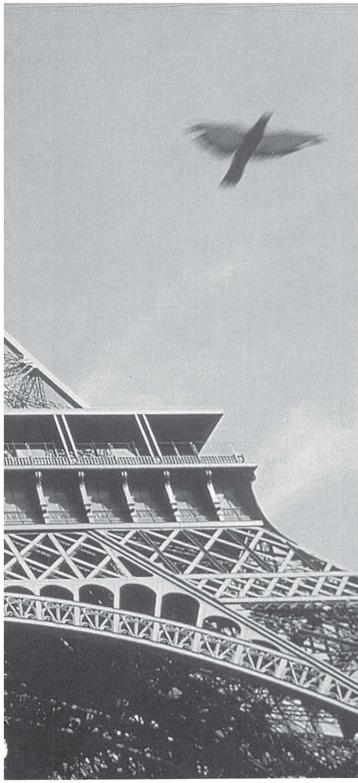
ポール・モーリア・オーケストラ
1967年にフランスのアンдре・ポップが作曲。もともとはユーロビジョン・ソング・コンテストでヴィッキーが歌うために作った(作詞はビエール・クル)もので、現にヴィッキーはこの曲で4位入賞を果たしましたが、翌年ポール・モーリアが演奏したものの方が強烈な印象を残しています。何しろあのビルボードのチャートで、5週間No.1ヒットになったのですから。ポールの、そしてフレンチ・ポップスの原点というべき名曲。

4 そよ風のメヌエット

ポール・モーリア・オーケストラ
演奏者としてはもちろんですが、作曲家としても超一流と太鼓判を押されているポール・モーリアの実力がわかる曲。1976年に発表されました。もとは日本のワイン・メーカーがCM曲として作曲を依頼したものでしたが、曲のよさゆえに、宣伝期間が終わっても曲が生き残ったというわけです。作曲家冥利に尽きるとはまさにこのことでしょう。

5 枯葉

ポール・モーリア・オーケストラ
ジャンソンの名曲を1曲だけ、といわれたらこ



の曲を挙げる方が多いのではないのでしょうか。1945年にハンガリーのジョセフ・コスマが作曲したバレエのためのメロディがオリジナル。これにフランスの詩人ジャック・プレヴェールが詞を付け、当時新人だったイヴ・モンタンが46年の映画『夜の門』で歌った、というのがこの曲が世に出るまでのプロセスです。現在はあらゆるジャンルの人が手がける超有名曲です。

6 アイ・ラヴ・パリ

ミッシェル・ルグラン・オーケストラ
1953年のミュージカル『カン・カン』のナンパーとしてコール・ポーターが作詞作曲しました。いまでこそ“ジャンソンのような顔”をしています。素性はアメリカ生まれなのです。1960年に映画化され、その中でフランク・シナトラとモーリス・シュヴァリエがデュエットでこの曲を歌い、一躍世界中に知れ渡りました。それ以後は……この曲を歌わないジャンソン歌手なんていないほどのもてぶりです。

7 パリのお嬢さん

ミッシェル・ルグラン・オーケストラ
1948年のフランス映画『パリの醜聞(スキャンダル)』(監督ロジェ・ブラン、主演ギー・デコンブル)の主題歌で、アンリ・コンテ(詞)とトポール・デュラン(曲)が作りました——と書いても、たぶんほとんどの方が覚えていな

いはずです。コメディ調スリラーの失敗作でしたから。この映画が今でも話題になるのは、この曲があったからこそ。当時デビューしたてのジャクリヌ・フランソワが歌い、後に彼女のテーマ曲になったほどです。

8 ムーラン・ルージュの歌

ジョン・ウィリアムズ指揮
ボストン・ポップス・オーケストラ
1952年のイギリス、アメリカ合作映画『赤い風車』(監督ジョン・ヒューストン、主演ホセ・ファーラー)の主題歌で、ジョルジュ・オーリックが作曲しました。ジャック・ラリュの歌詞でムーラン・ルージュの歌手サザ・ガボールが歌いましたが、ヒットしたのはカバーのパーシー・フェイズ楽団の演奏にフェリシア・サンダースのヴォーカルが加わった盤でした。

9 イン・シャラー

ポール・モーリア・オーケストラ
1966年にサルヴァトーレ・アダモの自作自唱でヒットした異色のジャンソンです。あまり政治的な曲は作らないアダモには珍しく、中東戦争直前のイスラエルの印象と平和への祈りが、フォーク・タッチの曲としてまとめられました。この3年前にあの「雪が降る」のヒットで人気歌手の仲間入りを果たしたアダモが、人々の決定打としてこの曲を放ったことになります。

10 ナレーション:『便り』

城 達也

11 詩人の魂

スタンリー・ブラック指揮
ロンドン・フェスティバル管弦楽団
1951年に歌手のシャルル・トレネが作詞作曲したものです。もちろん作者自身もレコーディングしていますが、それよりもイヴエット・ジローが歌い、ディスク大賞を獲得したことのほうが強烈な印象です。歌い出しの部分をそのまま曲名にした「ロンタン、ロンタン」でも通用しますし、英題「アット・ラスト、アット・ラスト」でも親しまれている名曲。

12 オリーブの首飾り

ポール・モーリア・オーケストラ
今日でこそポール・モーリアの代表曲とだれもが認める有名曲ですが、1974年の発表当時はポール盤を交えての競争合戦が展開されたものです。曲はクロード・モルガンが作ったもの、原題の「エル・ピンボ」にひっかけて「嘆きのピンボ」なんて邦題のレコードもありました。ほどよいビート、美しいメロディライン、どこからみてもこの曲の決定版はポール・モーリアですね。

13 エマニエル夫人

ポール・モーリア・オーケストラ
1974年の同名フランス映画(監督ジュスト・ジャカン、主演シルヴィア・クリステル)の主題曲で、ビエール・パシュレ&ハーブ・ロイの作詞作曲になるものです。ポール・モーリアは

いち早くこの曲をカバーし、ビエールが歌ったオリジナル曲以上の人気になりました。どことなく官能的で、どことなく気だるいムード、それでいて嫌味のない仕上がり、映画と両面でのヒットになったといえるでしょう。

14 シャルメーヌ

マントヴァーニ・オーケストラ
1926年にハンガリー出身のリュウ・ボラック(詞)とエルノ・ラベエ(曲)が作り、アメリカの無声映画『栄光』(監督ラオール・ウォルシュ、主演ヴィクター・マクラグレン、ドロレス・デル・リオ)の伴奏曲とPR曲として使われ、大ヒットしました。後にマントヴァーニ楽団の十八番となり、ムード音楽のスタンダード曲になりましたが、99年の映画『グリーンマイル』でも効果的に使われ、若い人たちの注目を集めたものです。

15 ラスト・タンゴ・イン・パリ

ポール・モーリア・オーケストラ
1972年の同名イタリア映画(監督ベルナルド・ベルトリッチ、主演マーロン・ブランド、マリア・シュナイダー)のテーマ曲で、ガトー・バルビエリが作曲しました。作者はアルゼンチン出身、タンゴの精神に裏打ちされた前衛的なスコアを得意にしており、この作品でもその持ち味を遺憾なく発揮していました。ポール・モーリアの演奏はダイナミックな魅力で迫っています。

16 風のささやき

ポール・モーリア・オーケストラ
1968年のアメリカ映画『華麗なる賭け』(監督ノーマン・ジュイソン、主演ステイヴ・マククイーン、フェイ・ダナウェイ)の主題歌で、アラン&マリリン・バグマン(詞)とミッシェル・ルグラン(曲)が作りました。俳優レックス・ハリソンの息子、ノエル・ハリソンが歌い、アカデミー主題歌賞を獲得。お洒落な映画のお洒落な主題歌でもいいでしょうか。

17 ばら色の人生

ミッシェル・ルグラン・オーケストラ
1944年にエディット・ピアフ(詞)とビエール・ルイギー(曲)が作り、ピアフの絶唱で知られるようになったジャンソンです。彼女が当時まだ無名だったイヴ・モンタンに対して恋心を抱き、その気持ちが曲に盛り込まれているといわれます。ピアフの半生を描いた1974年のフランス映画『愛の讃歌』(監督ギー・カザリル、主演ブリジット・アリエル)でも、もちろん印象的に使われていました。

18 夢幻飛行

(CD1の解説をごらんください)

【宮本 啓】



さる年のヨーロッパに虹とともに思い残した、夏があると思わないか。
 例えば、南ドイツの古都で雨。
 入口に可憐な鈴をつけたカフェで、紅茶茶碗を掌に包み、指先を暖めていた夏もあった。少し曇った窓ガラス越しに黒々と濡れた石畳が見え、塗り替えて間もない砂糖菓子色の家並みが、見捨てられた絵本のように、青ざめていた。こんなことがあってはならない、と思いつながら、カフェの客は、私一人で、次の町へのバスを待つ間の時間、何をする気もなく座っていたのだ。白い前掛けが目にしみる女主人が、降り込められた旅人を、気の毒そうに、レジの傍で見ていた。あの時、ババリアの空の下、晴れやかな夏を一つ、私は、カフェの椅子に、残してきたと思っているのだ。

Street Café

— 街角のカフェ —

3
CD
曲目解説

1 ミスター・ロンリー

フランク・プウルセル・グランド・オーケストラ
 (CD1の解説をごらんください)

2 愛のオルゴール

ジェームス・ラスト・オーケストラ
 1973年にカナダのピアニスト、フランク・ミルズが作曲しました。しかし、当時はそれほど注目されませんでした。ところが79年になって突然ヒット、全米チャートの3位にまで上昇し、日本にもその時点で紹介されました。オリジナルのフランクのレコード以外に斎藤仁子の訳詞で高田みづえが「潮騒のメロディ」として歌った“歌謡曲”版もヒット。素材でロマンチックなこの曲がスタンダード化するのに時間はかかりませんでした。

3 君住む街角

ミッシェル・ルグラン・オーケストラ
 CD1の「**1** 一晩中踊ったら」と同じく、1956年のミュージカル『マイ・フェア・レディ』のナンバーで、アラン・ジェイ・ラーナー (詞) とフレデリック・ロウ (曲) が書きました。こちらは美しいライラザに一目惚れした青年フレディが、彼女の後をつけて家を確かめ (まるでストーカーと言ふなかれ)、さりとてベルを鳴らす勇気もないので、この曲を歌うという設定でした。

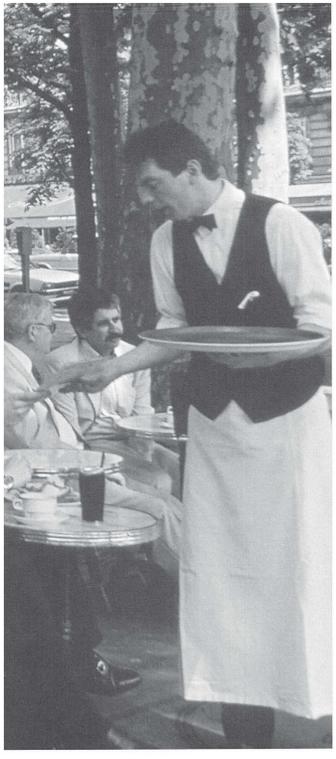
4 二人でお茶を

マントヴァーニ・オーケストラ
 1925年のミュージカル『ノー・ノー・ナネット』のナンバーで、アーヴィング・シーザー

(詞) とヴィンセント・ユーマンス (曲) が作りしました。50年に映画化 (監督デヴィッド・パトラー、主演ドリス・デイ、ゴードン・マックレイ) した際、曲名の「Tea for Two」がそのまま映画名になったほどヒットした曲です。58年になってウォーレン・コピントン&ザ・トミー・ドーシー楽団のチャチャチャ版がリバイバル・ヒットしました。

5 ミッシェル

ジェームス・ラスト・オーケストラ
 1965年にビートルズがアルバム『ラバー・ソウル』の1曲として歌った曲、なぜかシングル化されなかったため、カバー・レコード合戦が繰り広げられたことでも思い出に残っています。作はジョン・レノンとポール・マッカートニー



8 小さな喫茶店

アルフレッド・ハウゼ楽団
 後出の「**13** 奥様お手をどうぞ」と並んで、1930年代のタンゴ人気を支えた曲といえるでしょう。オペレッタの作曲家のフレッド・レイモンドが作曲、「カフェの魅惑」の題名で1931年に日本へ紹介された、と記録にあります。ほんとうに有名になったのは、当時の人気歌手、中野忠晴が歌謡曲風に歌ったからではなかったでしょうか。

9 メロディ・フェア

デヴィッド・ローズ楽団
 1971年のイギリス映画『小さな恋のメロディ』 (監督ワリス・フセイン、主演ジャック・ワイルド、トレーシー・ハイド) の主題歌で、ソフ・ロックのピーシーズが自作自唱しました。ピーシーズは当時ヒット・チャートの常連でしたが、この曲はなぜかチャートとは無関係で、ファンにとっては“密かに”愛することができうれしい曲になっているようです。この曲と主役の2人の子供のイメージがよく合っていたこと……。

10 ラスト・ワルツ

ジェームス・ラスト・オーケストラ
 1967年にイギリスのエンゲルベルト・フンパーディングが歌って大ヒットした曲で、バリー・メイスン (詞) とレス・リード (曲) が作りしました。エンゲルはこの前に全米チャート4位の「リリース・ミー」というビッグ・ヒットを放っているため、ヒット・チャートの最高位25位というは不満だったかもしれませんが。しかし、現在2曲の人気投票をしたら、逆の結果が出るのではないのでしょうか。

11 ナレーション：『南ドイツの古都』

城 達也

12 ラ・メール

ロジャー・ヴァン・オッテルロー楽団
 1938年にフランスのシャルル・トレネが自作 (共作者ノアルペール・ラスリーは、彼の伴奏ピアニスト) 自唱しました。曲名が示すように、これはズバリ「海」をテーマにした自然讃歌のような内容。恋や愛に直接関係ないシャンソンは珍しいといえましょう。自唱とはいっても、トレネがレコーディングしたのは45年になってからでした。アメリカに渡り、ボビー・ダーリンが「海の彼方」としてヒットさせたのは60年のことです。

13 奥様お手をどうぞ

アルフレッド・ハウゼ楽団
 前出「小さな喫茶店」とともに第1次 (?) タンゴ・ブームの中心にあった曲、ドイツ・タンゴを代表するヒット曲です。1928年にラルフ・エルヴィン (アーウィンと表記しているものもあり) が作曲、大ヒットしたため、翌年にはさっそくこの曲名をタイトルにした映画も作られたほどです。フランスに伝わってシャンソンになったり、ビング・クロスビー主演のアメリカ映画 (1948年) があつたり、話題に事欠かない曲です。

リカ映画 (1948年) があつたり、話題に事欠かない曲です。

14 碧空

アルフレッド・ハウゼ楽団
 コンチンタル・タンゴ (アルゼンチン・タンゴでないものをひっくり返るためこういいますが、正しくはコンチンタル=大陸で、ヨーロッパ・タンゴのこと。その中心はドイツです) を代表するもので、ドイツのヨーゼフ・リクスナーが作曲しました。日本に入ってきたのは1937年頃、バルナバス・フォン・ゲッツィのヴァイオリン中心の演奏にしばれた方も大勢いらつちやることでしょう。

15 チキチータ

スタンリー・ブラック楽団
 1979年に放つたアバのヒット曲です。全米29位、全英3位というチャート最高位の数字が残っていますが、そんな数字以上の人気がある曲のような気がします。悲しみに沈むチキチータを優しく慰めるという曲の内容は、国際児童救済資金のために作つた曲にふさわしいものといえましょう。作はベニー・アンデションです。なお、目下ロンドンでロングラン上演中のミュージカル『マミー・ミア』でも最重要曲として使われています。

16 ミスター・サマータイム

ポール・モーリア・オーケストラ
 1972年にビエール・ドラノエ (詞) とミッシェル・フェガン (曲) が作り、フェガンの歌でヒットしたシャンソンです。ただ、日本ではオリジナルがストレートにヒットしたのではなく、78年になって化粧品会社のCMのバックに使われたのを契機に、注目されるようになりました。当初「愛の歴史」となっていた曲名も、そのとき以来「ミスター・サマータイム」となり、現在に至っています。

17 時の過ぎゆくまに

ロニー・アルドリッチと
 ロンドン・フェスティヴァル管弦楽団
 1931年にハーマン・ハプフェルドが作詞作曲した名バラードです。オリジナルはルディ・バリエの歌でした。42年になりアメリカ映画『カサブランカ』 (監督マイケル・カーティス、主演ハンプリー・ボガート、イングリッド・バーグマン) で印象深く使われ、まるで同映画のオリジナル主題歌のようなイメージが作られてしまいました。そのとき出演してこの歌の華き語りをしたのは黒人ピアニストのドゥルー・ウィルソンでした。

18 夢幻飛行

(CD1の解説をごらんください)

【宮本 啓】

ハーグの町から、市電に乗って行きつく海の、
長い色敷石の遊歩道に、人影もまばらな頃のことだ。
その年は、幾らか不十分な夏を過ごして
立ち並ぶホテルも、カシノも、
海に突き出た水族館つきの棧橋も、
冴えない顔をしていた。
遊歩道の下の砂浜に、映画のセットみたいに並んだ、
天井なしのガラス囲いの海の家が、
北海の風を隔てたデッキチェアーに、
浮かぬ顔の海水浴客を集めていた頃、
強風に波立つ海が、砂まじりに濁って、
一握りの若者たちの胸板を洗い、
無謀とも見えるヨットの帆を、
沖の波間に見え隠れさせていたものだ。
チーズ色をしたオランダ娘の肌が
褐色に焼きあがる暑の夏であったが、
あだな願いの季節がめぐり、
心残りの遊歩道には、乗る人もないメリーゴーラウンドが、
打ち捨てられたように止まっていたのだった。

Lovers in Europe

— 恋人たちのヨーロッパ —

4
CD

目録解説

1 ミスター・ロンリー

フランク・ポウルセル・グラント・オーケストラ
(CD1の解説をごらんください)

2 男と女

ジェームス・ラスト・オーケストラ
1966年の同名フランス映画 (監督クロード・
ルルーシュ、主演アヌーク・エーメ、ジャン＝
ルイ・トランティニャン) のテーマ曲で、フラン
シス・レイが作曲しました。当時流行の兆し
を見せていたボサ・ノヴァのフィーリングを取
り入れ、ピエール・バルーとニコール・クワ
ジールのデュエットでサウンドトラックに入れ
たこの曲は大ヒット、つられて (?) 映画もヒ
ットしました。

3 白い恋人たち

アルフレッド・ハウゼ楽団

1968年の同名フランス・ドキュメンタリー映
画 (監督クロード・ルルーシュ) のテーマ曲で、
フランシス・レイが作曲しました。グルノー
ブルで行なわれた冬季オリンピックの公式記録映
画でしたが、無味乾燥な内容にならず、商業映
画としても成功したのは、人間を描けたからと
いえましよう。それを助けたのはフランシス・
レイの音楽で、計4曲のスコアがそれぞれに魅
力的でしたが、中でもワルツ調のこの曲が大ヒ
ットしたのです。

4 シバの女王

ポール・モーリア・オーケストラ

1967年に北アフリカ出身のシンガー＝ソング
ライター、ミッシェル・ローランが作詞作曲し
ました。翌年フレンチ・オーケストラの代表的
存在であるレイモン・ルフェーブル・グラント・
オーケストラがレコーディング。こちらに注目
が集まり、オリジナルのヴォーカル版はすっか
り影が薄くなってしまいました。シバ (サバと
表記することもあります、間違いではありません)
の女王に自分の恋人をダブせたらヴ・
ソングです。

5 ロミオとジュリエットの愛のテーマ

ヘンリー・ローゲス楽団
1968年のイタリア、イギリス合作映画『ロミ
オとジュリエット』 (監督フランコ・ゼッフィ
レッリ、主演レナード・ホワイティング、オリ

楽のガブリエル・ヤレドのスコアにもご注目を。

8 慕情

カーメン・キャバレロ

1955年の同名アメリカ映画 (監督ヘンリー・
キング、主演ウィリアム・ホールデン、ジェニ
ファー・ジョーンズ) の主題歌で、ポール・フ
ランシス・ウェブスター (詞) とサミー・フェ
イン (曲) が作りました。映画ではオーケストラ
にコーラスを絡ませ、いかにもメロドラマの
音楽という感じに仕上がっており、アカデミー
主題歌賞を獲得しました。フォー・エイセスの
レコードが全米No.1ヒットになっています。

9 禁じられた遊び

ナルシソ・イエベス

1952年の同名フランス映画 (監督ルネ・クレ
マン、主演ブリジット・フォッセー、ジョルジュ
・ブージュリー) の主題曲で、音楽を受け持
ったナルシソ・イエベスのギターのリズムが、平
和を訴えるかのように心を打ちました。曲はス
ペイン民謡『愛のロマンス』で、これより先の
41年のアメリカ映画『血と砂』や、この後の69
年のアメリカ映画『クリスマス・ツリー』など
でも主題曲として使われたことがあります。

10 第三の男

アントン・カラス

1949年の同名イギリス映画 (監督キャロル・
リード、主演ジョセフ・コットン、オーソン・
ウェルズ、アリダ・ヴァリ) の主題曲で、オース
トリアのツィッター奏者アントン・カラスが自
作自演しました。主人公ハリー・ライムのテ
ーマ曲でもあるため、「ハリー・ライムのテーマ」
という曲名でも通用します。いずれにせよ、そ
れまでも知られなかった民俗楽器ツィタ
ーを人気楽器にした功績大の曲です。

11 ナレーション：『スヘベニンゲン』

城 達也

12 夜霧のしのび違い

ロニー・アルドリッチと
ロンドン・フェスティヴァル管弦楽団

1963年の同名ギリシャ映画 (監督ワシリ・ジ
ョルジアデス、主演ジェニー・カレツツイ、デ
イミトリ・パバミカエル) の主題曲で、クロード
・チアリのギターで大ヒットしました。とい
っても、これは日本版だけの主題曲 (つまり編
集作業でこの曲を挿入) で、原曲はベルギーの
ジョー・ヴァン・ウェッター作曲の『浜辺』、
64年に作曲者を含むギター・トリオ、ロス・マ
ヤスでヒットした曲です。

13 悲しみは星影とともに

カーメン・キャバレロ

1965年の同名イタリア映画 (監督ネロ・リー
ジ、主演ジェラルディン・チャップリン、フェ
デリコ・ニーノ・カステルヌオーヴォ) の主題
曲で、ユーゴのイヴァン・ヴァンドールが作曲
しました。盲目の子供を主人公に、戦争の愚か
さ、悲惨さ、虚しさを淡々と描いて感動的だっ

た映画の心にしみる美しいメロディ。ギターで
聴くことが多いのですが、ここではピアノの演
奏でお楽しみください。カンツォーネとしても
ヒットした曲です。

14 ララのテーマ

ジェームス・ラスト・オーケストラ

ロシアの詩人・作家パステルナークの小説を
もとにした1965年のアメリカ映画『ドクトル・
ジバコ』 (監督デヴィッド・リーン、主演オマー・
シャリフ、ジュリー・クリスティ、ジェラルディ
ン・チャップリン) に付けられた曲。ロシア革命
時代を背景に波瀾に満ちた生涯を送った医師ジ
バコが愛した女性のひとり、ララのテーマ曲で
す。モーリス・ジャールが作曲し、大ヒットしま
した。この映画は作曲賞をはじめ脚本賞、撮影
賞など、アカデミー賞を5つも獲得しました。

15 おもいでの日

ロジャー・ヴァン・オッテルロー楽団

1971年の同名アメリカ映画 (監督ロバート・
マリガン、主演ジェニファー・オニール、ゲイ
リー・グライムス) の主題曲で、フランスの鬼
オミッシェル・ルグランが作曲しました。アカ
デミー作曲賞受賞曲でもあります。年上の女性
と恋する少年という図式はよくありますが、こ
れほど魅力的な音楽に彩られたケースは少な
く、それゆえに永遠に記憶されることになりま
した。

16 ブーベの恋人

スタンリー・ブラック楽団

1963年の同名イタリア映画 (監督ルイジ・コ
メンチーニ、主演クラウディア・カルディナー
レ、ジョージ・チャキリス) の主題曲で、カル
ロ・ルスチケッリが作曲しました。一見「ブ
ーベ」というのは女性名のように感じられます
が、これはチャキリス扮する男性の名前です。
センチメンタルなメロディで、日本で特に人気
の高い曲です。

17 ある愛の詩

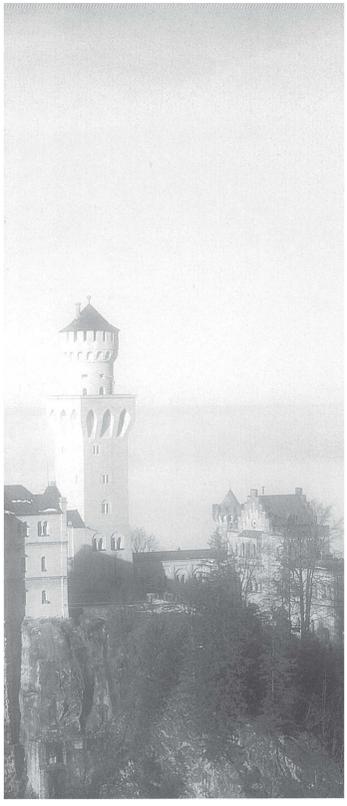
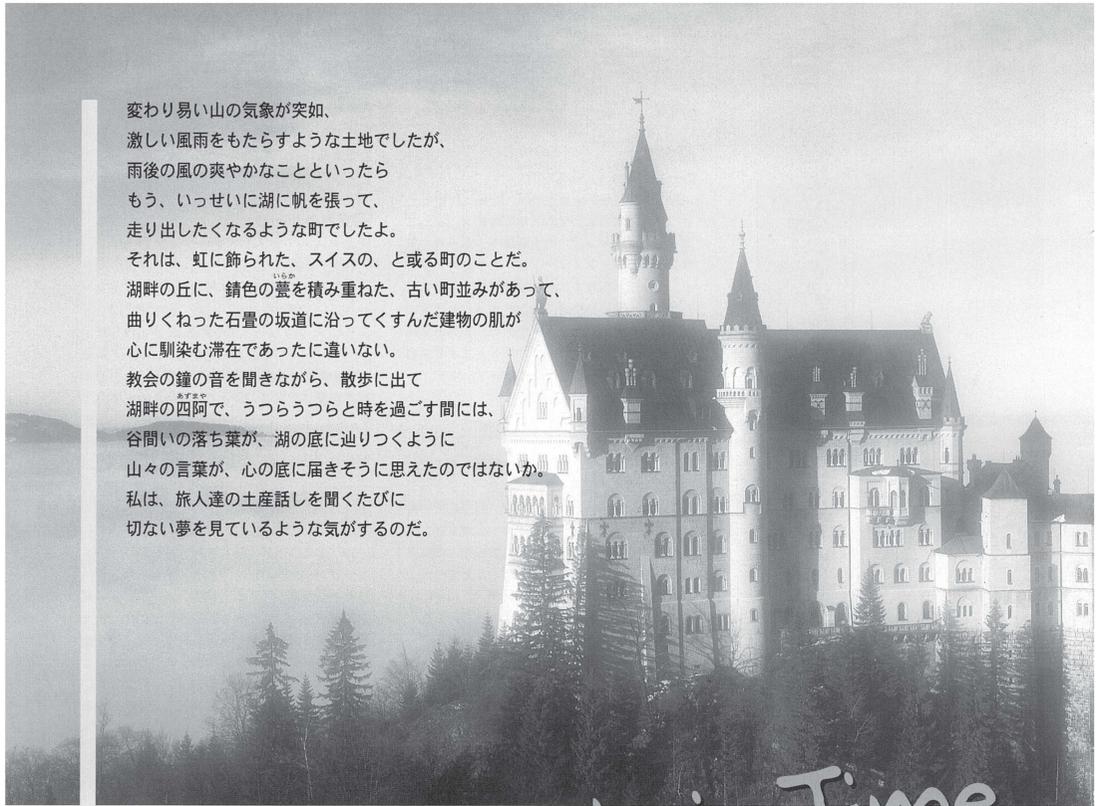
デヴィッド・ヴァン・ローズ楽団

1970年の同名アメリカ映画 (監督アーサー・
ヒラー、主演アリ・マックグロウ、ライアン・
オニール) の大ブレイク主題曲です。フランス
のフランシス・レイが初めて手がけたアメリカ
映画の音楽は、「愛とは決して後悔しないこと」
のフレーズとともに一世を風靡、大成功を取
りました。アカデミー作曲賞受賞、後にカール
・シグマンの詞が付いて、アンディ・ウィリア
ムのミリオン・ヒット盤も生まれました。

18 夢幻飛行

(CD1の解説をごらんください)

【宮本 啓】



変わり易い山の気象が突如、
激しい風雨をもたらすような土地でしたが、
雨後の風の爽やかなことといったら
もう、いっせいに湖に帆を張って、
走り出たくなるような町でしたよ。
それは、虹に飾られた、スイスの、と或る町のことだ。
湖畔の丘に、錆色の雲を積み重ねた、古い町並みがあって、
曲りくねった石畳の坂道に沿ってくすんだ建物の肌が
心に馴染む滞在であつたに違いない。
教会の鐘の音を聞きながら、散歩に出て
湖畔の四阿で、うつらうつらと時を過ごす間に、
谷間の落ち葉が、湖の底に辿りつくように
山々の言葉が、心の底に届きそうに思えたのではないか。
私は、旅人達の土産話を聞くたびに
切ない夢を見ているような気がするのだ。

Travel Back in Time

— 時の旅人 —

5 CD

曲目解説

1 ミスター・ロンリー

フランク・プウルセル・グランド・オーケストラ
(CD1の解説をごらんください)

2 グリーンスリーブズ

マントヴァーニ・オーケストラ
16世紀、もしくはそれ以前からイングランドに伝わっているトラディショナル曲です。ムード音楽として広まるきっかけは、マントヴァーニ・サウンドの生みの親、名編曲者ロナルド・ヒンジの手にかかったとき以降といえるでしょう。映画『西部開拓史』の中でデビー・レイノルズが歌った「牧場のわが家」も、クリスマス・キャロル「この御子は誰なるぞ」も、このメロディを使った曲です。

3 タイスの瞑想曲

マントヴァーニ・オーケストラ
ジュール・マスネ (フランス、1842~1912) が1893年に発表した歌劇《タイス》の第2幕で、ヴァイオリンとオーケストラによって演奏される有名な間奏曲です。歌劇本体と離れ、いわゆる“ポップ・クラシカル”のスタンダード曲として独立して聴くことが多い曲です。なお、タイス (タイースと書くこともあります) とは歌劇の主人公、アレクサンドリアの娼婦の名前。

4 ユーモレスク

フランク・チャックスフィールド・オーケストラ
アントニン・ドヴォルザーク (チェコ、1841~1914) が1894年に完成させたピアノ曲集《8

つのユーモレスク》の第7番変ト長調です。ヴァイオリン独奏曲に編曲されたものも有名です。曲名通りどことなく“ユーモラス”に感じるのは、ボツン、ボツンと途切れるような進行そのものによるところが大きいです。

5 みじかくも美しく燃え

ロニー・アルドリッチと
ロンドン・フェスティヴァル管弦楽団
1967年の同名スウェーデン映画 (監督ボ・ウイデルベルグ、主演ピア・デゲルマルク、トミー・ベルグレン) でヒロイン、エルヴィラのテーマ曲として使われたヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト (オーストリア、1756~91) の作品です。1785年に発表したピアノ協奏曲第

音色と白鳥の優雅な雰囲気とをシンクロさせたこの曲だったようです。

8 ホフマンの舟唄

マントヴァーニ・オーケストラ
ジャック・オッフエンバック (ドイツ→フランス、1819~80) の死後1881年に初演された歌劇《ホフマン物語》の第2幕で歌われる舟唄です。「美しい宵、恋の宵」ともいわれるこの曲は、主人公のホフマンが、愛する美女ジュリエッタが他の男と船遊びに興じる様子を見ている場面に流れます。

9 ナレーション：『スイス』

城 達也

10 愛よ永遠に

ロニー・アルドリッチと
ロンドン・フェスティヴァル管弦楽団
ふたたびモーツァルトの作品で、1788年に作曲した交響曲第40番短調K.550の第1楽章の第1テーマをポップス化したものです。1971年にスペインのワルド・デ・ロス・リオスが改作、自分の楽団でレコーディングしたところ、大ヒットし、以後多くのポップス・プレイヤーがレパートリーに入れるようになりました。この邦題が最もポピュラーですが、「哀しみのシンフォニー」と題されることもあります。

11 月の光

マントヴァーニ・オーケストラ
印象主義音楽の開拓者として知られるクロード・ドビュシー (フランス、1862~1918) の作品で、ピアノのための《ベルガマスク組曲》の第3曲。ドビュシーの作品の中でも、最も有名な曲のひとつで、オーケストラをはじめフルート、ハープなどいろいろな楽器のために編曲されて親しまれています。ふりそそぐ月の光の美しさが、じつに雰囲気豊かに描かれた名曲です。

21番ハ長調の第2楽章アンダンテのメロディが下敷きになっています。ヒロインにちなんで、「エルヴィラのテーマ」という曲名でも紹介されます。

12 アルビノーニのアダージョ

ザンフィル
トマゾ・アルビノーニ (イタリア、1671~1750) はヴァルディと並ぶ後期バロック時代の代表的作曲家で、45もの歌劇や器楽曲を残しています。この「アダージョ」は作曲年不明で、第二次大戦中、破壊されたドレスデンの図書館から発見された楽譜 (の断片) からR. ジャゾットがこのような形にまとめたといえます。63年のフランス映画『審判』のメイン・テーマ曲として使われたこともありました。

13 恋のアランフェス

ジェームス・ラスト・オーケストラ
ホアキン・ロドリゴ (スペイン、1902~99) が1940年に作曲したギター協奏曲《アランフェス》の第2楽章をポピュラー・スタイルにアレンジしたもの。ギタリストならだれもが一度は手がけたことのある曲でしょう。スペインの古都アランフェスを舞台にした恋の物語……といった空想をたくくなるような、エキゾチックな味とロマンの香りがミックスされた曲、そんないい方もできるのではないのでしょうか。

7 白鳥

フランク・チャックスフィールド・オーケストラ
シャルル・カミーユ・サン＝サーンス (フランス、1835~1921) が1886年に作曲 (出版は遺言により死後の22年) した管弦楽曲《動物の謝肉祭》全14曲中の13曲目です。オーストリア旅行中、友人が催した謝肉祭の音楽会用に作曲したもので、どれも機知に富んだおもしろさがありますが、一般に最も受けたのは、チェロの

14 パッヘルベルのカノン

ポール・モーリア・オーケストラ
ヨハン・パッヘルベル (ドイツ、1653~1706) が作曲した《3声のカノンとジーク》二長調が原曲です。作曲年ははっきりしませんが、ドイツのバロック・オルガンの発展と普及に大きな力を持った曲といえます。スペインのグループ、ポップ・トップスがヒットさせ (1968年) たり、レイモン・ルフェーブルの演奏が1969年のフラ

ンス映画『夫婦』の主題曲になったり、大モテの曲です。

14 ドリゴのセレナーデ

フランク・チャックスフィールド・オーケストラ
リカルド・ドリゴ (イタリア、1846~1930) が1900年に発表したバレエ音楽《百万長者の道化師》で最も印象的なメロディで、そのまま独立して「ドリゴのセレナーデ」として親しまれています。「愛の夜曲」という邦題もあるようですが、それほど普及しているとはいえません。ドリゴはベテルブルグの劇場指揮者として功績があった人で、作曲数はあまり多くありません。

15 学生王子のセレナーデ

フランク・チャックスフィールド・オーケストラ
シグムント・ロンバーク (ハンガリー→アメリカ、1887~1951) の1924年初演のミュージカル (オペレッタとも) 『学生王子』のナンバーです。学生の町ハイデルベルクで勉強中の小国の王子が、その町のウェイトレスと逢うときに歌う美しいセレナーデ。日本では54年のMGMミュージカル映画『皇太子の初恋』のナンバーとして耳にしたのが最初、という方が多いかもしれません。

16 オンブラ・マイ・フ

マントヴァーニ・オーケストラ
ポピュラー音楽のファンは、ずっと「ヘンデルのラルゴ」の曲名で“セミ・クラシック曲”のスタンダードとして親しんできましたが、近年「オンブラ・マイ・フ」のほうが通りがよくなってきたようです。ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル (ドイツ→イタリア→ギリシヤ、1685~1759) が1738年に初演した歌劇《セルセ (クセルクセス)》の第1幕、主人公ペルシア王セルセが庭園の木陰で歌う愛の歌で、「緑の木陰」「なつかしい木陰」などの邦題があるものもそのせいです。

17 別れの曲

マントヴァーニ・オーケストラ
フレデリック・ショパン (ポーランド→フランス、1810~49) が1829年から32年にかけて作曲し、フランチ・リストに献呈された《12の練習曲》作品10番の3曲目、ホ長調です。この曲だけが突出して知られるのは、1934年にフランスで作られたショパンの伝記映画 (監督ゲザ・フォン・ボルファリ他、主演ジャン・セルヴェ) の邦題が『別れの曲』と付けられて以来だといわれています。

18 夢幻飛行

(CD1の解説をごらんください)

【宮本 啓】

ガス灯のもとで、ワインを飲みながら隣のテーブルの、打明け話を聞いていた。優しい男友達に囲まれていることが人並み以上の幸せと一緒に、不幸せももたらすに違いない、とか……。愛する人に眠って、深い間柄にならないものだ、とか……。時に誘惑者の目が澄んでいることがある、といったようなことだ。痩せて、性的な魅力のとぼしい娘に見えたが、古いレンガの壁を背にした、青白い顔と真っ赤な唇が、屋敷の奥でひっそりと咲く花のように思われた。それから何時間かして、夜明けの川を見た帰り道、堤防のほとりのカフェに入ると、隣のテーブルで、あの娘がただ一人、手紙を書いていた。四角いドーナツのパウダーシュガーにむせて、慌てて飲んだ苦いコーヒー。長い長い手紙を書いている娘を見ながら、眠りそこねた朝を迎えようと、カフェが混んでくる時刻まで、そこに座っていたのだったが……。

Like a Dream

— 旅・夢の途中 —

6

CD

曲目解説

1 ミスター・ロンリー

フランク・フルセル・グランド・オーケストラ (CD1の解説をごらんください)

2 雨にぬれても

ベルト・ケンプフェルト楽団
1969年のアメリカ映画『明日に向かって撃て!』(監督ジョージ・ロイ・ヒル、主演ポール・ニューマン、ロバート・レッドフォード、キャサリン・ロス)のアカデミー主題歌賞受賞のテーマ曲です。ハル・デヴィッド(詞)とパート・バカラック(曲)が作り、ビリー・J・トーマスが歌ったもので、主人公が自転車乗りに興じる微笑ましいシーンに流れた、一服の清涼剤的な佳曲でした。

3 サウンド・オブ・サイレンス

ジェームス・ラスト・オーケストラ
ポール・サイモンが1964年に作り、サイモン&ガーファングルの初の全米No.1ヒットになったフォーク調ポップスの傑作です。67年になって映画『卒業』(監督マイク・ニコルズ、主演ダスティン・ホフマン、キャサリン・ロス、アン・バンクロフト)の主題歌として使われ、再度人気になりましたが、チャート・インしたのは映画のために新たに作られた「ミセス・ロビンソン」のほうでした。

4 スカポロー・フェア

アーサー・フィードラー指揮
ボストン・ポップス・オーケストラ
これも「サウンド・オブ・サイレンス」同様

サイモン&ガーファングルのヒット曲で、映画『卒業』に使われました。ただ、彼らのオリジナルではなく、イギリス旅行中にポール・サイモンが耳にし、書きとめておいた民謡のメロディを、後日このような曲にまとめたものといわれています。原題の後に「Canticle=詠唱」と付けられているのはそのためです。なお、この曲の全米ヒット・チャートの最高位は1968年の11位。

5 ゴッドファーザーの愛のテーマ

アルフレッド・ハウゼ楽団
1972年のアメリカ映画『ゴッドファーザー』(監督フランシス・フォード・コッポラ、主演マーロン・ブランド、アル・パチーノ)の主題曲で、作曲はニノ・ロータです。アカデミー



コアで、アカデミー主題歌賞に輝いています。この後『野生のポリー』と『永遠のエルザ』という2本の関連映画も作られました。

8 エデンの東

カーメン・キャバレロ
1955年の同名アメリカ映画(監督エリア・カザン、主演ジェームス・ディーン、レイモンド・マッセイ)の主題曲で、レナード・ローゼンマンが作曲しました。日本ではジェームス・ディーン人気とともに曲も大ヒットしましたが、セントラ盤がなく、ヴィクター・ヤングの演奏がチャートに入り続けたため、一部に作曲したのもヴィクター・ヤングという誤解が生じたとか……ペリオーズの曲をヒントにしているという説もあります。

9 煙が目にしみる

デヴィッド・ローズ楽団
1933年のミュージカル『ロバータ』のナンバーで、オットー・ハーバック(詞)とジェローム・カーン(曲)が作りました。恋の炎が消えた後に残る煙、というユニークなテーマを設定、それを失恋の悲しみにダブらせたバラードの傑作です。59年のザ・プラターズのコーラス、90年のJ.D.サウザーの映画『オールウェイズ』の主題歌ヴァージョンなど、何回もバイバル・ヒットしていることも忘れられません。

10 ナレーション:『フレンチクォーター』

城 達也

11 サンタマリアの祈り

ジェームス・ラスト・オーケストラ
演奏家としてだけでなく、作曲家としても高い評価を得ているジェームス・ラストの代表作のひとつです。彼は「ファール」「悲しみは空の彼方に」「ハッピー・ハート」など、自分の楽団以外でヒットした曲をたくさん作っていますが、曲の美しさという観点から言えば、この曲が断然最右翼でしょう。サンタマリアとは「聖母マリア」のこと、またアメリカ大陸を発見したコロンブスが乗っていた船の名でもあります。

12 コンドルは飛んでいく

ジェームス・ラスト・オーケストラ
サイモン&ガーファングルの最後のオリジナル・アルバム、1970年の『明日に架ける橋』の1曲として吹き込み、シングル・カットされてチャートの18位まで上昇するヒットになりました。もともとペルー民謡として知られた曲でしたが、S&Gが取り上げて以来、フォルクローレのスターダム曲になったかのように、だれも手がける人気曲となりました。ケーナという民俗楽器の笛が知られるようになったきっかけの曲でもあります。

13 酒とばらの日々

ジョン・ウィリアムズ指揮
ボストン・ポップス・オーケストラ
1962年の同名アメリカ映画(監督ブレイク・エドワーズ、主演ジャック・レモン、リー・レ

ミック)の主題歌で、ジョニー・マーサー(詞)とヘンリー・マンシーニ(曲)が作りました。アルコール中毒と戦う夫婦の姿を描いた“硬派”の映画に、逆の“甘美な”音楽を持ってきたおもしろさ——というよりも、これはアル中患者の“幸せな”頭の中をイメージした曲のようです。アカデミー主題歌賞受賞曲。

14 シャレード

アルフレッド・ハウゼ楽団
1963年に同じM・Mコンビ(ジョニー・マーサー、ヘンリー・マンシーニ)が作った曲。この曲もアカデミー主題歌賞候補となり、61年の『ティファニーで朝食を』の「ムーン・リヴァー」から前曲につづいて、3年連続受賞かと騒がれましたが、惜しくもノミネートどまりでした。ただ、受賞した「パパは王様」より、こちらのほうが上という声は今もあります。映画は監督スタンリー・ドローネ、主演オードリー・ヘップバーン。

15 ソー・イン・ラヴ

クレバノフ・ストリングス
1948年のミュージカル『キス・ミー・ケイト』のナンバーで、コール・ポーターが作詞作曲しました。『キス・ミー・ケイト』は53年にMG Mのミュージカル映画になりましたが、日本では未公開に終わっています(過日WOWOWで放映していましたが)。フランク・シナトラ、ダイナ・ショアなどがレパートリーに入れて、やや地味な印象はあるものの、スタンダード曲として親しまれています。

16 青春の光と影

アルフレッド・ハウゼ楽団
1967年に、カナダのシンガー=ソング・ライター、ジョニー・ミッチェルが作詞作曲しました。フォーク・ソング・ブームの中に咲いた大輪の花といえるでしょう。ヒットさせたのはジュディ・コリンズで、全米チャートの8位という記録が残っています。また、69年に同名アメリカ映画(監督ポール・バートレット、主演ケント・レイン、ミシェル・ケリー)が作られたことも、曲の人気に拍車をかけました。

17 ふたりの誓い

アルフレッド・ハウゼ楽団
1970年の同名(原題は異なりますが、邦題は同じ)アメリカ映画(監督サイ・ハウアード、主演マイケル・ブランドン、ボニー・ベデリア)の主題歌で、ロブ・ウィルソン、アーサー・ジェイムズ(詞)とフレッド・カーリン(曲)が作りました。カーペンターズの歌でヒット・チャートの3位まで上昇、ミリオン・セラーにもなりました。

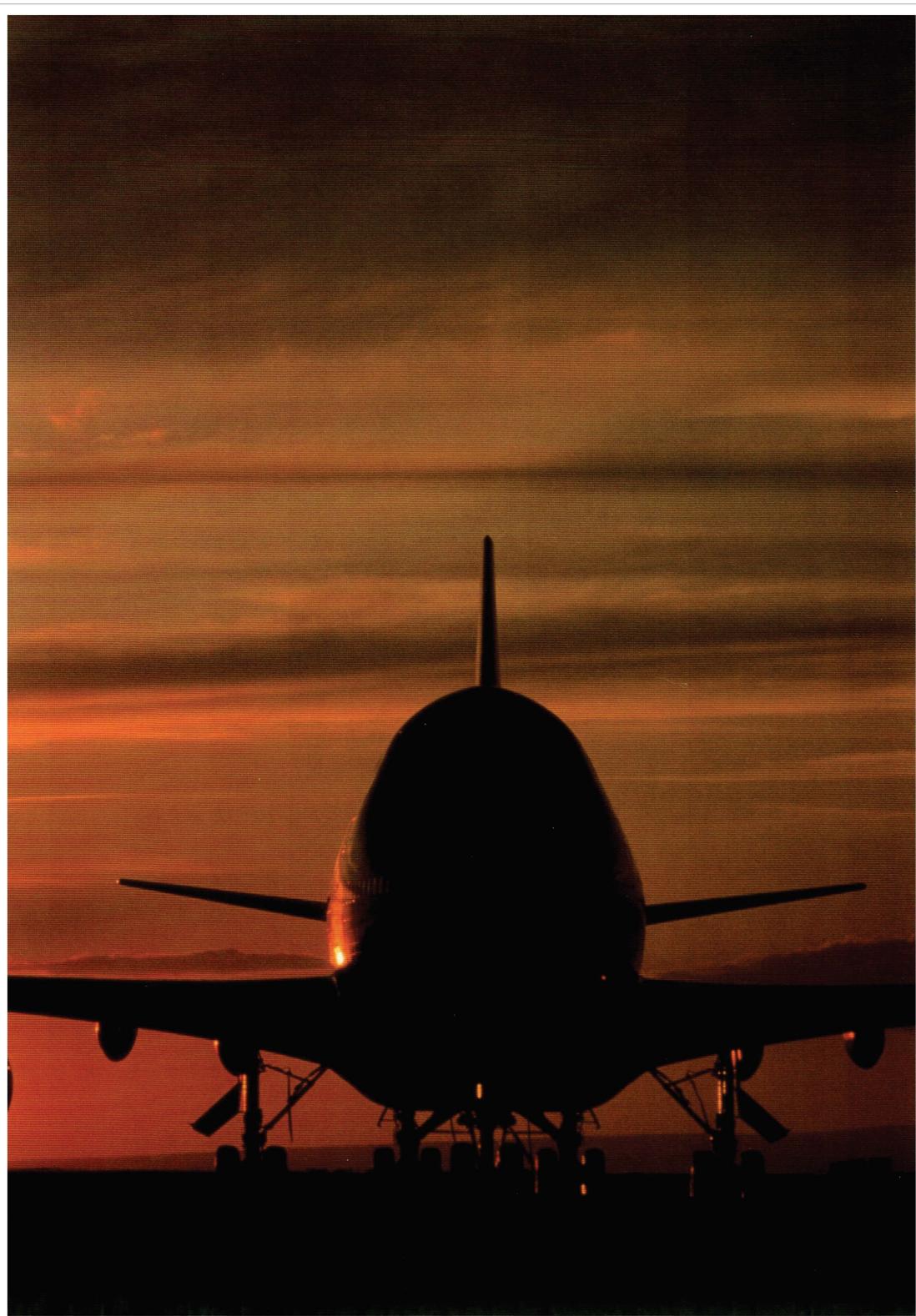
18 夢幻飛行

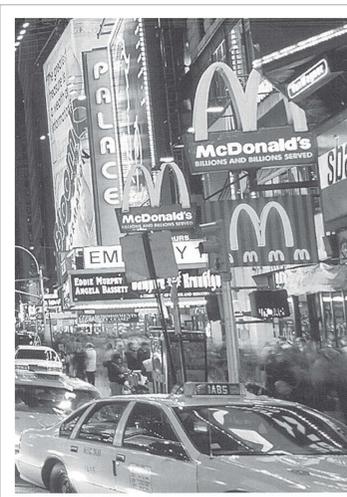
(CD1の解説をごらんください)

【宮本 啓】

遠い地平線が消えて、ふかぶかとした夜の闇に心を休める時、
はるか雲海の上を音もなく流れ去る気流は、
たゆみない宇宙の営みを告げています。
満天の星をいただくはてしない光の海を
ゆたかに流れゆく風に心を開けば、
きらめく星座の物語も聞こえてくる
夜の静寂しじまの、何と饒舌なことでしょうか。
光と影の境に消えていったはらかな地平線も
臉おもてに浮かんでまいります。

夜間飛行のジェット機の翼に点滅するランプは、
遠ざかるにつれ次第に星のまたたきと区別がつかなくなります。
お送りしております、この音楽が
美しく、あなたの夢に、溶け込んでいきますように。





スペインの恋歌が聞こえる。
バルコンを見上げる若者に、
恋人の寝所の明かりは、夜空の星よりも遠い。
ピロートのマントに、五色のリボンをひらひらさせ、
友に守られた青春の顔が、夜目にも白い。
年を経た石壁の、沈黙の向うから、
直ちに、色よい返事があるはずもなく、
頑固親父が、冷や水代わりに手近のワインを
窓から浴びせてよこすのが関の山だ。
それも、いいではないか。
更に、心をこめて歌うがいい。
青春だけが、あの星空高く、
羽ばたくことができるのだから……。

日暮打ちは、パブの扉を押して、
日常は、又一つ手馴れた夢を見る。
さながら、自分の名を彫りつけた椅子の
きしみ具合も身についた、
暗いホールの、片隅の安らぎ。
はた又、肩触れ合ういきれの中の安堵。
喜びと同じくらいには悲しみについても語り、
いずれ、知りつくした者同士が、
互いに懺悔僧を真似
兄弟のふりをして、一日を無事に終わらせる
工夫ができていなのだ。
明日になれば……。そして又、明日になれば、
夢の目醒めの朝のように、記憶はうす墨色に霞み、
窓の外の明るさだけが、
目にしみるはずなのだから……。

Night Flight

— ナイト・フライト —

7
CD
曲目解説

1 ミスター・ロンリー

フランク・ポウルセル・グランド・オーケストラ
(CD1の解説をごらんください)

そもそもは器楽曲だったことを覚えておきましょう。日本のTV時代初期の名番組「シャボン玉ホリデイ」のエンディング曲になったこともありです。

テーマ」という曲名で紹介されることもありです。72年度のアカデミー賞で劇映画音楽賞(現在の作曲賞に当たる)に輝いていますが、20年間もアメリカで公開されなかったため、大幅に受賞が遅れたのです。

2 スターダスト

フランク・チャックスフィールド・オーケストラ
1927年にピアニストのホーギー・カーマイケルが作曲した失恋のバラード、CD6の⑨「煙が目にしみる」と並んで、アメリカ2大名バラードと言えるのではないだろうか。2年後にミシェル・パリッシュが英詞を付け、ナット・キング・コールの名唱が生まれたりしますが、

3 ライムライト
マントヴァーニ・オーケストラ
1952年の同名アメリカ映画(監督・主演チャールズ・チャップリン、共演クレア・ブルーム、シドニー・チャップリン)のテーマ曲で、チャップリンが作曲しました。ヒロインのパレリーナ、テリーのテーマ曲でもあるため「テリーの

4 ムーン・リヴァー

マントヴァーニ・オーケストラ
1961年のアメリカ映画『ティファニーで朝食を』(監督ブレイク・エドワーズ、主演オードリー・ヘップバーン、ジョージ・ペバード)の主題歌。ジョニー・マーサー(詞)とヘンリー・マンシ

ともども最高の評価を得ています。

8 ナレーション：『セレナーデ』 城 達也

9 アメイジング・グレイス ザンフィル

「至上の愛」という邦題でも親しまれている、イギリスのトラディショナル曲です。一説によれば、1779年にジョン・ニュートンという名の牧師が作った曲だともいいますが、それ以外の詳細は不明です。ともあれ、1970年にフォーク歌手ジュディ・コリンズ(CD6の⑩「青春の光と影」参照)が、また72年にはスコット・ドラグーン・ガーズ・バンドのレコードがヒットし、すっかりおなじみになった賛美歌風ポップスです。

10 メモリー ザンフィル

1982年の初演以来すでに20年近く、世界のミュージカルをリードし続けてきた名作『キャッツ』のナンパード、T.S.エリオット(詞)とアンドリュウ・ロイド・ウェッパ(曲)が作りしました。娘婦猫のグリゼベラが、それまでの生涯を思い出しながら歌い、静かに天上に昇って行く、このミュージカルの最高の見せ場にふさわしい心にしみる見事な曲です。

11 追憶

スタンリー・ブラック楽団

1973年の同名アメリカ映画(監督シドニー・ポラック、主演バーブラ・ストライサンド、ロバート・レッドフォード)の主題歌で、アラン&マリリン・バークマン(詞)とマービン・ハムリッシュ(曲)が作りしました。タイトルバックで歌ったのはもちろんバーブラ自身、アカデミー主題歌賞を獲得、全米ヒット・チャート1位の座も手中に収めました。20年の永きおとろしの愛の歴史と思い出が綴られる名歌です。

12 ディア・ハンターのカヴァティナ

スタンリー・ブラック楽団

1978年のアメリカ映画『ディア・ハンター』(監督マイケル・チミノ、主演ロバート・デ・ニロ、クリストファー・ウォーケン)の主題曲として、スタンリー・マイヤーズが作曲しました。アカデミー賞では作品賞をはじめ5部門でオスカーを獲得したのに、音楽がノミネートもされなかったのは不思議です。それほどいい曲耳なじみのこのコールの歌は、名手レス・パスターがアレンジしたものだといえます。

13 ナレーション：『パブ』 城 達也

14 今宵の君は

マントヴァーニ・オーケストラ

1936年のアメリカ映画『有頂天時代』(監督ジョージ・スティューヴンス、主演フレッド・アステア、ジンジャー・ロジャース)の主題歌で、

ドロシー・フィールズ(詞)とジェローム・カーン(曲)が作り、アカデミー主題歌賞を獲得しました。アステア・ロジャース・コンビは、どうしてもダンスの話題が多くなりがちでしたが、第6目にして初めて話題を独占するような名曲に巡り合えたのでした。

15 イエスタディ・ワンス・モア

デヴィッド・ローズ楽団

1973年にカーペンターズが放ったヒット・チューンで、全米チャートの2位まで上昇しています。ベストセラー・アルバム『ナウ・アンド・ゼン』の1曲としてジョン・ペティス、リチャード・カーペンターのコンビが作ったもので、当初シングル・カットの予定はなかったようですが、日本などで好評の声を聞き、急速にシングル化したといえます。カーペンターズ7枚目のミリオン・セラーになりました。

16 フライ・ミー・トゥー・ザ・ムーン

マントヴァーニ・オーケストラ

1954年にバート・ハワードが作詞作曲した「イン・アザー・ワーズ」で、T.S.エリオット(詞)とアンドリュウ・ロイド・ウェッパ(曲)が作りしました。娘婦猫のグリゼベラが、それまでの生涯を思い出しながら歌い、静かに天上に昇って行く、このミュージカルの最高の見せ場にふさわしい心にしみる見事な曲です。

17 ミスディ

マントヴァーニ・オーケストラ

1955年に黒人ピアニストのエロール・ガーナーが作曲しました。飛行機の窓から眺めた霧に煙る街の風景が、この曲を作るヒントになったというのは、有名なエピソードです。後にジョニー・パークが歌詞を付け、ジョニー・マティス、サラ・ヴォーンなどの名唱が生まれましたが、元来は器楽曲、特にピアノ用の曲であることをお忘れなく。

18 魅惑のワルツ

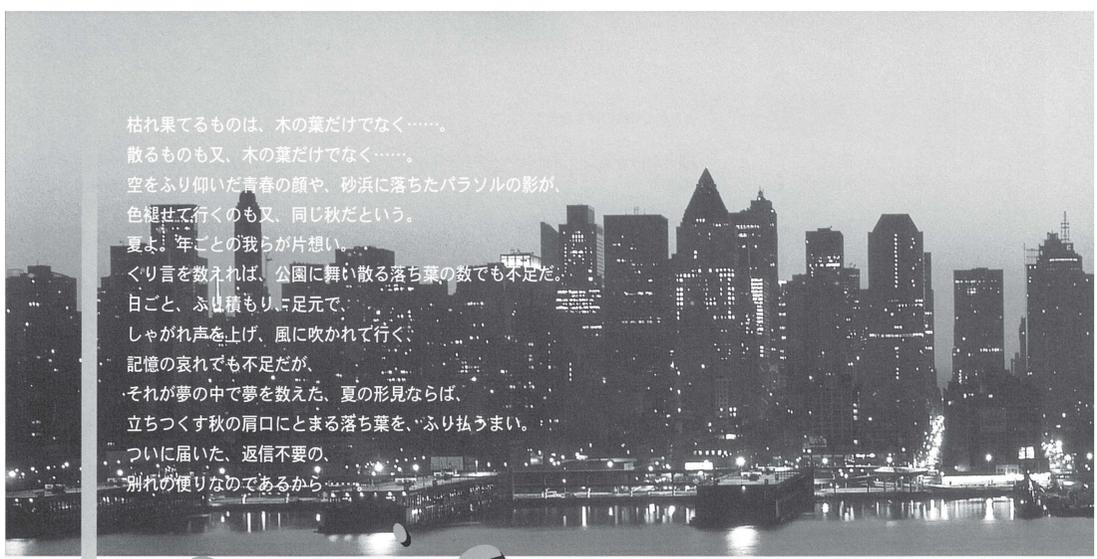
フランク・チャックスフィールド・オーケストラ

1957年のアメリカ映画『昼下りの情事』(監督ビルリー・ワイルダー、主演ゲーリー・クーパー、オードリー・ヘップバーン、モーリス・シュヴァリエ)のテーマ曲です——というのは半分しか正しくありません。なぜなら、この曲は1904年にイタリアのフェルモ・ダンテ・マルケッティが作った「ジプシーのワルツ」で、この映画に「ほめこんだ」だけなのです。でも、この映画に使われなかったら、たぶんとくにと忘れられていたのではないのでしょうか。

19 夢幻飛行

(CD1の解説をごらんください)

【宮本 啓】



枯れ果てるものは、木の葉だけでなく……。
 散るものも又、木の葉だけでなく……。
 空をふり仰いだ青春の顔や、砂浜に落ちたバラソルの影が、
 色褪せて行くのも又、同じ秋だという。
 夏よ。年ごとの我らが片想い。
 くり言を数えれば、公園に舞い散る落ち葉の数でも不足だ。
 白ごと、ふり積もり足元で、
 しゃがれ声を上げ、風に吹かれて行く。
 記憶の衰れでも不足だが、
 それが夢の中で夢を数えた、夏の形見ならば、
 立ちつくす秋の肩口にとまる落ち葉を、ふり払うまい。
 ついに届いた。返信不要の、
 別れの便りなのであるから。

OASIS

— 摩天楼のオアシス —

8
CD
目録解説

1 ミスター・ロンリー
 フランク・ブルセル・グラント・オーケストラ
 (CD1の解説をごらんください)

2 アルフィー
 アーサー・フィードラー指揮
 ボストン・ポップス・オーケストラ
 1966年の同名イギリス映画(監督リュイス・ギルバート、主演マイケル・ケイン、シェリー・ウィンタース)の主題歌で、ハル・デイヴィッド(詞)とパート・バカラック(曲)が作り、シェールが歌いました。この映画全体の音楽をモダン・ジャズのデナー・サクソ奏者ソニー・ロリンズが受け持ったため、話題はそちらに集中しましたが、この主題歌のよさも見逃せません。アカデミー主題歌賞にノミネートされたほどです。

3 茶色の小瓶
 グレン・ミラー・オーケストラ U.K.
 1869年に出版登録されている古い曲(作られたのはもっと古いのでは?)です。作詞作曲のヨセフ・E.ウィナーという人に関しては詳細不明ですが、そもそも「茶色の小瓶」とはフォトボール・ゲームの優勝トロフィーのことといえますから、それを争ったミネソタカミシガンの大学生あたりではないでしょうか。一般には

グレン・ミラー楽団の十八番として知られますが、グレンがこの曲を手がけたのは、1年という短期間のことでした。

4 真珠の首飾り
 グレン・ミラー・オーケストラ U.K.
 1941年にエディ・デ・ランジ(詞)とジェリー・グレイ(曲)が作り、グレン・ミラー楽団の演奏でヒットしました。作曲者のジェリーは、グレン・ミラー楽団の編曲者として鳴らした人で、あのきらびやかなグレン・サウンドはこの人なくしては生まれなかったといえそうです。また、ジェリーは、グレンとの関わりとは別に自分の楽団も持っていて、この曲もレコーディングしています。

5 アンチェインド・メロディ
 ジョン・ウィリアムズ指揮
 1955年のアメリカ映画『アンチェインド』(監督ホール・バートレット、主演エルロイ・ハッシュ、チェスター・モリス)の主題歌で、ハイ・ザレット(詞)とアレックス・ノース(曲)が作りしました。アル・ヒブラーの歌が全米チャート3位まで昇りましたが、映画が日本未公開のため、さほど話題にはなりません。65年にライチャス・ブラザースがリバイバルさせ、

90年には映画『ゴースト』の主題歌になり、広く普及しました。

6 蒼い影
 ジェームス・ラスト・オーケストラ
 1966年にイギリスのロック・グループ、プロコル・ハルムが放ったデビュー・ヒット曲です。同グループの実質的リーダー、ゲイリー・ブルッカーが、バッハのカンタータ第140番『目覚めよと呼ぶ声が聞こえ』に触発されて書いた曲といわれていますが、この演奏から“原曲”を感じ取っていただけるでしょうか。

7 夜のストレンジャー
 ベルト・ケンプフェルト楽団
 1966年のイギリス映画『ダイヤモンド作戦』(監督ロナルド・ニーム、主演ジェームス・ガーナー、メリナ・メルクーリ)の主題歌で、チャールズ・シングルトン、エディ・スナイダー(詞)とベルト・ケンプフェルト(曲)が作りしました。たまにある“B級作品のA級音楽”の典型で、たちまち音楽だけが独自に歩みはじめました。フランク・シナトラの熱唱にグラミー賞最優秀男性歌手賞、最優秀レコード賞が与えられました。

8 イン・ザ・ムード
 グレン・ミラー・オーケストラ U.K.
 1938年に黒人サクソ・ブレイヤーで、編曲者としても著名なジョー・ガランドが作曲しました。後年アンディ・ザラフの歌詞もできましたが、ヴォーカルを耳にすることはあまりありません。何と云ってもこの曲は翌39年にレコーディングしたグレン・ミラー楽団の演奏に止めをさします。また、終わりそうで終わらない曲の進行は、クラシック曲のラヴェルの《ボレロ》のよう……そう、これは“ポップス版ボレロ”です、まさに。

9 ジス・ガイ
 ジェームス・ラスト・オーケストラ
 1968年にハーブ・アルパートが、本職のトランペットだけでなく、ヴォーカルも加えて吹き込み、全米No.1ヒットにした曲です。作はハル・デイヴィッド(詞)とパート・バカラック(曲)のゴールデン・コンビ、まさに脂の乗り切った時期を象徴するような輝きに満ちた傑作といえましよう。

10 ナレーション：『秋』
 城 達也

11 誰かが誰かを恋してる
 ベルト・ケンプフェルト楽団
 1948年にアーヴィング・テイラー(詞)とケン・レーン(曲)が作り、フランク・シナトラがレパートリーに入れていましたが、特に目立つ曲ではありませんでした。しかし64年になってディーン・マーチンが歌ったところ大ヒット(全米No.1ヒットですから文句のつけようもありません)になり、曲も歌手も久しぶりに日の目を見たのでした。この曲を歌うように進言したのは、シナトラだったかも……。

12 スリーピー・ラグーン
 ハリー・ジェームス楽団
 1930年にイギリスのエリック・コーツが作曲、40年にジャック・ローレンスの詞が付けられました。42年になり、楽譜がアメリカに渡り、ザヴィア・クガート、ハリー・ジェームスなどがレコーディング、特に人気トランペッターだったハリーの演奏は、けだるいラグーン(珊瑚礁の島にある沼のような場所)の屋下がりといった曲の狙いにぴったりで、大受けしました。以来トランペットの定番になっています。

13 サマータイム
 フランク・チャックスフィールド・オーケストラ
 1935年初演のミュージカル(当時はフォーク・オペラと呼んでいた)『ボーギーとベス』のナンバーで、デュボース・ヘイワード、アイラ・ガーシュウィン(詞)とジョージ・ガーシュウィン(曲)が作りました。第1幕、漁師ジェイクの妻クララが歌う子守歌で、黒人霊歌の「時には母のない子のように」をヒントにした、という説もあります。いずれにせよ、類い稀な美しいメロディで、作曲家自身も大のお気に入りだったようです。

14 トゥナイト
 アルフレッド・ハウゼ楽団
 1957年初演のミュージカル『ウェストサイド物語』のナンバーで、スティーヴン・ソンドハイム(詞)とレナード・バーンスタイン(曲)が作りました。61年にロバート・ワイズとジェローム・ロビンスの共同監督で映画化され、舞台、映画、ともに記録的なヒットになりました。この人気を見て「ミュージカルに新時代が到来した!」と叫んでいた人々の気持ちもわかります。これはトニーとマリアの愛のデュエット曲。

15 マリア
 クレバノフ・ストリングス

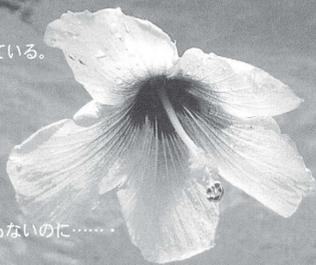
前曲に続いてこれも『ウェストサイド物語』からの曲で、デュエットする前の、トニーとマリアのことを思っ歌う愛の歌です。シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』を下敷きに作られたこのミュージカルは、原作の階級差が、若者たちの“軍団”対立に置き換えられ、いつの時代にも恋が実を結ぶには多くの障害があることを教えてくれました。そんな背景を考えるとこの曲の切なさがよけいにしみる感じがです。

16 ラヴ・ミー・テンダー
 ベルト・ケンプフェルト楽団
 1956年の映画『やさしく愛して』(監督ロバート・D.ウェップ、主演エルヴィス・プレスリー、デブラ・バジェット、リチャード・イーガン)の主題歌で、もちろんエルヴィスが歌いました。チャートのトップを5週続け、エルヴィス人気を決定的なものにした曲といえます。ただ、曲そのものは古く、1861年にジョージ・R.ポールトンが作った「オーラ・リー」で、これをエルヴィスとヴェラ・マストンがポップス化しました。

17 愛はきらめきの中に
 ホール・モーリア・オーケストラ
 1977年のアメリカ映画『サタデー・ナイト・フィーバー』(監督ジョン・バダム、主演ジョン・トラボルタ、カレン・コーニー)のナンバーで、ピーター・Dinklage(詞)とピーター・Dinklage(曲)が作りました。この映画には他に「恋のナイト・フィーバー」「ステイン・アライブ」とピーター・Dinklageの3曲あり、いずれもNo.1ヒットになり驚かされたものです。

18 夢幻飛行
 (CD1の解説をごらんください)

ウィルシャー大通りをサンタモニカの方へ
ロサンゼルスロサンゼルスの空が広い。
頂で葉をゆする大王ヤシの、
褐色の胸毛の辺りに日が傾きかかる。
先頃はダウンタウンの、ごみごみとしたビルの谷間で、
待ち人を迎えた目が、今は晴れ晴れと西をめざし、
人影もまばらな歩道の向うに、
ゆったりと立ち並ぶビルの群れに恍惚としている。
ウィンドシールドの青い色が、
横長の景色の空を染めて、
富のもたらず心地良さは、人工着色の
ほどよい絵ぞら事になっている。
その贅沢な芝の緑を、一皮めくれば、
渺々たる砂漠がひろがっていることは疑いもないのに……



Summer Resort

— エンジョイ!
リゾート・アイランド —

9

CD

曲目解説

1 ミスター・ロンリー

フランク・フルセル・グラント・オーケストラ
(CD)の解説をごらんください

2 ひき潮

フランク・チャックスフィールド・オーケストラ
1953年にアメリカのハーブ奏者ロバート・マックスウェルが作曲しました。後にカール・シグマンが歌詞を付け、器楽曲としても、ヴォーカル曲としても同じように親しまれています。演奏では作者のロバート自身の他に、効果音入りのフランク・チャックスフィールド盤が大ヒット。歌ではザ・ブラターズ、ライチャス・ブラザーズなどのヒットが忘れられません。

3 夏の日の恋

フランク・チャックスフィールド・オーケストラ

1959年のアメリカ映画『避暑地の出来事』（監督デルマー・デイヴィス、主演トロイ・ドナヒュー、サンドラ・ディー）の主題曲で、マックス・スタイナーが作曲しました。50年代から60年代にかけての典型的なメロドラマだった平凡な映画が、今も強烈な印象で脳裏に刻まれているのは、新鮮なこの音楽のせいではないでしょうか。特にパーシー・フェイス楽団の演奏が全米No.1ヒットになったことは快挙でした。

4 白い渚のブルース

フランク・チャックスフィールド・オーケストラ
1961年にイギリスのクラリネット奏者アッカー・ビルクが自作自演し、翌62年にはアメリカでもヒットし、1週間でしたが、チャートの1位にもなっています。曲が誕生したときは「ジェニー」と題されていましたが、BBC放送の番

ハワイの島影を数えて、渡り鳥のように飛び、
一日を七重にも八重にも
生きることができるのだという。
或る島では、女性の立ち姿に似た山々が
緑の山袂を折り重ね、
目を浴びた肩口に、レンガ色の地肌をにじませていた。
又、或る島では、数百メートルの断崖が、
幾筋もの滝をかけて、屏風のように海に落ち、
苔むす壁に、海鳥が群れて飛んでいた。
遊覧飛行の窓の下を流れる景色を、巻き絵のようにつなぎ、
島ごとに、花蔭の娘を置いて通り過ぎた一日であったが……。

組テーマに決まり、「ストレンジジャー・オン・ザ・ショア」と改題されたそうです。ロマンチックなムードは邦題の「白い渚のブルース」というイメージにも合っています。

5 いそしぎ

フランク・チャックスフィールド・オーケストラ
1965年の同名アメリカ映画（監督ヴィンセント・ミニリ、主演エリザベス・テイラー、リチャード・バートン）の主題歌で、ポール・F・ウェプスター（詞）とジョニー・マンデル（曲）が作りました。作曲者はジャズ畑のピアニストでもあり、ムード豊かな雰囲気の中にも、ジャジーな感覚を配し、なんとあの『シェルブールの雨傘』を退け、アカデミー主題歌賞を獲得しました。

ジオ番組のテーマ曲になったからといいますが、
筆者は未確認です。

9 波路はるかに

ビリー・ヴォーン楽団

1937年にハリー・トピアス（詞）とパーシー・ウェンリッチ（曲）作った曲を、57年になってビリー・ヴォーン楽団が取り上げ、リバイバル・ヒットさせました。この曲によりビリー・ヴォーンヴォーンの日本での人気は急上昇したものです。この邦題は「歌舞伎ファンだったレコード会社の洋楽担当者が、『勸進帳』のセリフにヒントを得てつけたそうだ」（浅井英雄著『ムード音楽』誠文堂新光社より）とのことです。

10 イパネマの娘

ロニー・アルドリッチと

ロンドン・フェスティバル管弦楽団

1963年にブラジルのヴィニシウス・ジ・モライス（詞）とアントニオ・カルロス・ジョピン（曲）が作りました。65年になってジャズ・サックスのスタン・ゲッツと新人歌手アストラッド・ジゼルベルトのレコードがヒット・チャートに入り、5位まで上昇すると、世界的なボサ・ノヴァ・ブームが巻き起こったのでした。64年にこの曲を聴かせるために『クレイジー・ジャンボリー』という映画が作られたほどです。

11 エストレリータ

スタンリー・ブラック楽団

1914年にメキシコの作曲家マヌエル・ボンセが作曲、23年にフランク・ラフォーシェが今日聴かれるようなポピュラー曲に仕立て直しました。「スターダスト」のラテン音楽版という紹介の仕方があるほどで、星に願いをかける女がテーマの、誠に美しいメロディを持った曲です。日本ではトリオ・ロス・パンチョスの歌を聴いてこの曲のファンになった方が多いようです。

12 グリーン・アイズ

スタンリー・ブラックと

ラテン・アメリカン・リズムス

1929年にキューバのピアニスト、ニロ・メネンデスが作曲しました。アドルフ・ウトレラの詞も付いており、ナット・キング・コールのヴォーカル盤などは、この歌詞を使っています。しかし、一般的には器楽曲のイメージが強いのではないのでしょうか。それも、ラテン・ピアノというイメージがいちばん……。原題を「アケジョス・オホス・ベルデス」といい、「彼女の緑の瞳」の意味です。

13 ブルー・ハワイ

ビリー・ヴォーン楽団

1937年のアメリカ映画『ワイキキの結婚』（監督フランク・タトル、主演ビング・クロスビー）の主題歌で、ビングが歌ってヒットしました。この映画にはもう1曲「スウィート・レイラニ」という曲があり、これがアカデミー主題歌賞に輝いたため、「ブルー・ハワイ」が割りを食った感なきにしもあらずですが、61年にこの曲名を使った映画が作られたのでまずまず、といっ

たところでしょうか。作曲はラルフ・レインジャー。

14 ナレーション：『島めぐり』

城 達也

15 バリ・ハイ

フランク・チャックスフィールド・オーケストラ
1949年のミュージカル『南太平洋』（次の『魅惑の宵』を参照のこと）のナンバーです。この作品の中には無数の佳曲がちりばめられており、後にスタンダードになったものもたくさんあります。しかし、この「バリ・ハイ」はややイメージが違ふ曲といえるかもしれません。というのは、南の海に浮かぶ“特別の島”バリ・ハイ、という内容のため、ミュージカル本体と切り離して存在させにくい曲だからなのですが。

16 魅惑の宵

マントヴァーニ・オーケストラ

1949年初演のミュージカル『南太平洋』のナンバーで、オスカー・ハマースタインII世（詞）とリチャード・ロジャース（曲）が作りました。58年の映画版（監督ジョシュア・ローガン、主演ロッサノ・ブラッツィ、ミッチー・ゲイナウ）、66年の日本の舞台版（高島忠夫、越路吹雪）などで広く親しまれています。この曲はマントヴァーニ楽団の十八番でもあり、ムード音楽のスタンダード曲でもあります。

17 砂に書いたラヴレター

フランク・チャックスフィールド・オーケストラ

1931年にニック・ケニー、チャールス・ケニー（詞）とフレッド・クーツ（曲）が作った曲——というのは、実は資料をそのまま紹介したもので、筆者を含むほとんどの人は1957年にバット・ブーンがヒットさせたのを聴いて、初めてこの曲を知ったのではないのでしょうか。失恋の悲しみを海辺の波と砂とが洗い流してくれるように、という内容はセンチメンタルな雰囲気を持っているバット・ブーンにぴったりでした。

18 夕陽に赤い帆

フランク・チャックスフィールド・オーケストラ

1935年にイギリスのジミー・ケネディ（詞）ヒュー・ウィリアムズ（曲）が作ったムード豊かな曲です。このコンビは他にも「ハーバーライト」のように海にちなんだ曲を多く作っていますから、夏になると思い出す人といえましょう。ザ・ブラターズが1960年に、ファッツ・ドミノが63年にそれぞれリバイバル・ヒットさせていますから、若い方にも身近な曲といえるかもしれません。

19 夢幻飛行

(CD)の解説をごらんください

【宮本 啓】

一軒のリゾートホテルが
 熱帯の緑に包まれて、潮騒を聞いている。
 人里を遠く離れ、訪れるものは、
 日に一度、二度のバスだけだから。
 滞在客は、珊瑚礁の夢を破られることがない。
 内海の、空色の水にカヌーを浮かべ
 釣り糸を垂れて日を送ったり
 外海の波をくぐって、珊瑚礁の岩棚を彷徨う間には、
 胸の中で、久しく眠っていたものが目覚め、
 暗闇に、血の色をにじませて、
 脈打ち始めるのではないか。
 夕暮れの渚では、ヤシガニが、
 黄色いハイビスカスを、巣穴に引き入れ、
 地中の暗がりや、満開の花を抱いて眠ろうとする。
 まさに、滞在客の切なる願いも、
 花を抱いて眠ることに近いのであったが。

Memories

— 美しい旅の思い出 —

10
CD

目録解説

1 ミスター・ロンリー

フランク・ポウルセル・グランド・オーケストラ
 (CD1の解説をごらんください)

2 パリのあやつり人形

ポール・モーリア・オーケストラ
 1967年にユーロビジョン・ソング・コンテストで、パリジェンヌばかりの4人組コーラスグループがグランプリを獲得した曲として知られています。ポール・モーリアの初期サウンドの魅力をもたえた曲で、ビエール・ドラノエによって作曲されました。

3 エーゲ海の真珠

ポール・モーリア・オーケストラ

1970年にポール・モーリアが放ったスマッシュ・ヒットです。当初メキシコ向けにレコーディングしたものを、後に日本でも発売したところ大ヒットしたという裏話があります。原題を「ベネロベ」といい、スペインのアウグスト・アルゲロが作曲しました。「エル・ピンボ」が「オリーブの首飾り」になったのと同じように、これも邦題のうまさや、ヒットした理由の何パーセントかを占めるのではないのでしょうか。

4 ベニスの夏の日

マントヴァーニ・オーケストラ
 1955年のイギリス映画『旅情』（監督デヴィッド・リーン、主演キャサリン・ヘップバーン、ロッサノ・ブラッツィ）の主題曲で、イタリア

のアレッサンドロ・チコニーニが作曲しました。後にカール・シグマンが歌詞を付け、ヴォーカル曲としても高い人気があります。ゴンドラ、恋、そしてロマンチックな歌……それがベニスに欠かせない3大名物としたら、この映画にはそのすべてが盛り込まれていました。

5 モンテカルロの一夜

アルフレッド・ハウゼ楽団
 1931年のドイツ映画『狂乱のモンテカルロ』（監督ハンス・シュヴァルツ、主演アンナ・ステン、ハンス・アルバース）の主題歌で、ウェルナー・リヒャルト・ハイマンが作曲しました。一種のミュージカル映画になっていたそうで、「これぞマドロスの恋」というヒット曲もこの



8 グラナダ

マントヴァーニ・オーケストラ

1932年にメキシコのアグスティン・ララが作曲した大曲で、ラテン音楽を代表する名曲のひとつといえます。スペインの古都グラナダへの思いをこの曲に託した、といいますが、実は作者がスペインへ行った痕跡はなく、ほとんど想像だけでこの曲を作ったらしいのです。大したイメージだと感心してしまいます。「メキシコのガッシュウィン」ともいわれるアグスティン「らしき」をご堪能ください。

9 ポルトガルの四月

マントヴァーニ・オーケストラ

1947年にポルトガルのジョゼ・ガリヤルド（詞）とパウル・フェロン（曲）が作った「コインブラ」という曲に、イギリスのジミー・ケネディが6年後に英詞を付け、この「ポルトガルの四月」が誕生しました。53年にレス・バクスター楽団のレコードがヒットすると、他の人たちも競ってレパートリーに入れ、この53年はちょっとした「ポルトガル合戦」の様相を呈したのです。

10 ロシアより愛をこめて

マントヴァーニ・オーケストラ

1963年のイギリス映画『007/危機一発』（監督テレンス・ヤング、主演ショーン・コネリー、ダニエラ・ピアンキ）のテーマ曲で、ライオネル・パートが作詞作曲しました。イギリスのベテラン歌手マット・モンローが歌ったこの曲は、007シリーズ全体を通して最も人気があった主題歌のひとつといえるでしょう。リバイバル上映から映画名も曲名と同じ『007/ロシアより愛をこめて』に変わりました。

11 ナレーション:『フィジアン・ホテル』

城 達也

12 サン・ホセへの道

アーサー・フィードラー指揮

ボストン・ポップス・オーケストラ

1968年にディオニス・ワーウィックが歌い、全米チャートの10位にランクされたヒット曲で、もちろん、ハル・デイヴィッド（詞）とパート・バラック（曲）の名コンビが作りました。また、ディオニスはこの曲によってグラミー賞最優秀女性歌手賞を手に入れています。サン・ホセとは、南米各地にある地名ではなく、ここではサンフランシスコ東南部にある小さな田舎町のことを指します。

13 ブラジル

エドムンド・ロス楽団

1939年にブラジルのアリー・パロゾが作曲したサンバです。ポルトガル語の原曲の意味は「ブラジルの水彩画」で、絵画的な美しさも盛り込んで作られたことを示唆しています。サンバといえ後にボサ・ノヴァへとつながっていくわけで、この曲からそんな“芽”を感じていただけるかどうか……。43年にウォルト・ディズニーが『ラテン・アメリカの旅』という映画で

紹介して以来、急速に普及した曲でもあります。

14 アルゼンチンよ泣かないで

ジュリアン・ロイド・ウェッパ（チェロ）
 バリー・ワーズワース指揮

ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団

1978年にロンドンで初演の幕が下がったミュージカル『エビータ』のナンバーで、ティム・ライス（詞）とアンドリュー・ロイド・ウェッパ（曲）が作りました。この作品はその後ブロードウェイへ進出し、96年には映画にもなって（監督アラン・パーカー、主演マドンナ）、さらに有名になりました。アルゼンチンの大統領夫人になったエビータが、バルコニー上から民衆に向かって歌う感動の1曲です。

15 思い出のサンフランシスコ

ロニー・アルドリッチと

ロンドン・フェスティヴァル管弦楽団

1953年にアメリカのダグラス・クロス（詞）とジョージ・C. コリー（曲）が作ったサンフランシスコへの望郷の念あふれる歌曲です。翌年にトニー・ベネットが歌って大ヒット、69年にはサンフランシスコ市の市歌になったほどです。日本では「思い出の……」「霧の……」「わが心の……」など、さまざまな曲名になっているので、統一してほしいと思わないでもありません。

16 ミズリー・ワルツ

マントヴァーニ・オーケストラ

1914年にアメリカのジェイムズ・R. シャノン（詞）とフレデリック・スイト・ローガン（曲）が作った古いワルツ。ワルツを最も多くレパートリーに入れていたと思われるマントヴァーニの十八番のひとつで、よき時代が偲ばれると感じる方も多いことでしょう。オリジナル・ヒットは16年のヴィクター・ミリタリー・バンド盤。この曲をトルーマン大統領がこよなく愛したというエピソードもあります。

17 カナダの夕陽

ジェームス・ラスト・オーケストラ

1956年にノーマン・ギンベル（詞）とエディ・ヘイウッド（曲）が作った描写音楽風ポップスです。黒人ピアニストだったエディ自身のテクニクを前面に出したユーゴー・ウィンター・ハルター楽団の演奏、ロマンチックに歌い上げた若き日のアンディ・ウィリアムスの歌などが有名です。冬のカナダで生まれたロマンスをテーマにしているの、単なる描写音楽とは一味違います……。

18 夢幻飛行

(CD1の解説をごらんください)

【宮 啓】

大空への夢

スクリーンに映る空のドラマ



①『素晴らしきヒコーキ野郎』
 ②『素晴らしきヒコーキ野郎』復元したプロペラ飛行機
 ③『翼よ!あれが巴里の灯だ』ジェームズ・スチュアート
 ④『華麗なるヒコーキ野郎』ロバート・レッドフォード
 ⑤『プリティ・ウーマン』自家用ジェットに乗るジュリア・ロバーツとリチャード・ギア
 ⑥『恋人たちの予感』メグ・ライアンとピリー・クリスタル
 写真協力= (株)川喜多記念映画文化財団

鳥のように自由に空を飛べたら—この人類生まれて以来の夢を実現させたのは、アメリカのライト兄弟でした。1903年のことですから、まだ100年もたっていないんですが、それから今日まで、人間の空中飛行がおどろくべき発展をとげたのはご存じのとおり。その背景には、もっと速く、もっと高くという大空への限りないあこがれがありました。

こうした空への夢をスクリーンに映し出した映画もたくさんつくられています。そこではどんなドラマが繰り広げられるのでしょうか。

まずは『素晴らしきヒコーキ野郎』(1965年、ケン・アナキン監督)。プロローグは飛行機開発の歴史—といっても、まるでチャップリンのドタバタを見ているような傑作ドキュメントです。自動車の上にプロペラをつけたはいが、上下にバタバタするだけのシロモノや、地上をはいずり回って人間を追いかけるもの、翼を20枚も付けたものなど、手づくりのヘンな飛行機が騒々しく現れますが、どれもなかなか空に飛び立てません。

ようやくまともな飛行機の時代となって1910年、ロンダーバリ間を飛ぶ飛行レースに、世界各地からヒコーキ野郎が自慢の愛機で集結します。日本からは石原裕次

郎が出演。すべて当時の複葉機や三葉機といった古典的なスタイルのプロペラ飛行機を復元して撮影しました。レースものんびりしたもので、眼下に広がる豊かな田園風景もすばらしい。空を飛ぶことによるこびがふれた名画といえましょう。

さて、第一次世界大戦後の1920年代になると、ヒコーキ野郎の夢もさらに広がります。『翼よ!あれが巴里の灯だ』(1957年、ピリー・ワイルダー監督)の主人公チャールズ・A.リンドバーグもそのひとり。1927年に単発機で、大西洋無着陸横断(ニューヨークーパリ間約5600キロ)を達成しました。以来、飛行機はその実力を認められて飛躍的な発展をとげるのです。

彼は一睡もせず、30時間以上もかけて大西洋を渡ります。この映画は、その間の孤独感、嵐や凍結などの恐怖をみごとに描いて、飽きさせません。そしてついに、パリの灯が星のようにまたたくのを目にしたときは、見ているこちらら思わず感動! リンドバーグを快演したジェームズ・スチュアートは、実際にパイロットの免許を持っていました。ちなみに、キャサリン・ハップバーン、ジョン・トラヴォルタも免許所持者です。

「バーストーマー」とよばれる曲乗り飛行士たちのスリリングなパフォーマンスが楽しめる『華麗なるヒコーキ野郎』(1975年、ジョージ・ロイ・ヒル監督)の舞台も、1920年代です。ヒル監督は海兵隊のパイロットだったので、飛行機が大好き。トリック撮影やスタントマンを一切使わないので、主演のロバート・レッドフォードは、単発機で宙返りをしたり、飛んでいる飛行機の翼を歩いたりといった危険なシーンに自ら挑戦して、本格的な空中アクション映画となっています。彼はこれに味をしめたのかどうか、『愛と哀しみの果て』(1985年、シドニー・ポラック監督)でも、飛行機乗りとしてアフリカの空を飛びまわりました。

今や飛行機は身近な乗物となりましたが、それでも自家用機となると話は別です。『天国から来たチャンピオン』(1978年)のウォーレン・ベイティ(監督も)は大金持ちに出世するや、自家用ヘリコプターで通勤。『プリティ・ウーマン』(1990年、ゲーリー・マーシャル監督)のビジネスエリート、リチャード・ギアは、自家用ジェットでジュリア・ロバーツをエスコートしてオペラを見物。こんなゼイタクしてみたい……。

私たちにおなじみの旅客機の旅でも、ドラマは生じます。『フレンチ・キス』(1995年、ローレンス・カスダン監督)のメグ・ライアンは、バリ行きの飛行機で隣り合わせたケビン・クラインと口論になりますが、やがて彼とフォール・イン・ラブ。『恋人たちの予感』(1989年、ロブ・ライナー監督)でも、やっぱりメグは相手のピリー・クリスタルと口論。5年後にケネディ空港で再会し、同じ飛行機に乗り合わせたことをきっかけに、長い助走をもった恋が始まります。

空港といえば、エリザベス・テイラー、リチャード・バートン夫妻やオーソン・ウェルズらが、ロンドン空港を舞台に繰り広げるさまざまな人生ドラマ『予期せぬ出来事』(1963年、アンソニー・アスキス監督)も、忘れがたい名作です。

こうして飛行機を描いた映画を見てみると、飛行機の楽しみ方は時代とともに多様になっているようですね。そして、飛行機は人と人とを結びつける乗物だということが、わかるのではないのでしょうか。

「ジェットストリーム」の思い出——馬場葉子

「ジェットストリーム」は、1970年のTOKYO FM開局以前のFM東海時代、1967年当時からつづいているFM界最長寿番組です。私が「ジェットストリーム」の担当ディレクターになったのは、1977年のことで、この番組が1980年に10周年を迎えようとする直前までの3年ほどを担当しました。番組も聴取者のみなさんによく知られてきて、聴取率もつねにトップを独占していました。この番組が始まったころは、まだ海外旅行が現在ほど一般的ではなかったのですが、旅のロマンへ誘うリラクゼーション・プログラムとして、多くのファンを獲得しました。ジェット機の飛行音につづく開始テーマ「ミスター・ロンリー」、それにかぶる城達也さんのナレーションは、もうすっかりおなじみとなりました。毎晩お聴きになるファンの方もいらしたようですが、一日の疲れをいやすため眠りにつくときの音楽を提供する番組として、日常の生活のリズムに、ごく自然に入りこんでいたのだと思います。

●番組はこうして収録

日曜を除く毎日放送されましたが、城さんには週に2回ほどスタジオに来ていただいて、3日分ぐらいのナレーションをまとめて収録します。下読みからぶつづけで3時間ぐらいかけて、ほとんど休憩なしで録りました。城さんがブースに入ってナレーションを録音しているとき、私は実は、次週の曲目を選んでテープに録音しているのです。ポピュラー音楽が大好きなもので、たいていのレコード（当時はLPでした）の内容は、頭の中に入っています。そこで、



「ジェットストリーム」のナレーションを録音中の城達也さん

番組専用のレコード棚から選んできたLPをスタジオに積み上げ、選曲しながらテープに収録してしまいます。番組の性格からも、また当時のポピュラー音楽の流れからみても、曲はほとんどがイージーリスニングでした。この番組にはポリシーがあって、すべてインストメンタルとし、ヴォーカルやライヴものは選曲しないことになっていました。ジャズも軽いものに限ったのは、真夜中の12時に始まる番組で、眠りと夢に誘う番組だったからです。

城さんの収録のあとは、ナレーションと曲を合わせて番組を組み上げます。こうしてお互いが別のところで一生懸命やっていたものが、1本の番組となって、みなさんに届けられたというわけです。

●宝物だった城さんの声

「ジェットストリーム」は夜に聴かれる番組ですから、城さんもそのムードを出すように、ずいぶん研究なさったと思います。私も最初のころは、イージーリスニングの中でもおとなしい曲を選んだつもりが、実際夜になって放送を聴いてみると、ずいぶん元気な曲を選んで、しまったと思ったときがありました。

レコードに入っている曲と曲のあいだのブランクは、ふつう4秒程度あります。この4秒という長さが絶妙なのだ、ということがわかったのも、この番組です。次の曲がかかると「間」が、これより早くても遅くても、城さんのナレーションのテンポにフィットしなくなるのです。こうした間があると、穴があいてしまったようでこわいのですが、語りの達人は、この間のとり方がとても上手です。特にラジオでは「間」がたいせつで、音のないところに、いかに味をだすか——この「間」をよく生かしていたのが、城さんでした。

それだけでなく、城さんのナレーションは深みのある実にいい声で、抑揚や感情の移入のしかたなど、かなり細かく気を配って独特の味わいを出し、この番組とはベストマッチングでした。「ジェットストリーム」のトータルなムードを演出し、番組をリードしていたのは、城さんのナレーションだったのです。城さん自身も、この番組をととても大事にしていました。最長寿番組となったのは、基本コンセプトが優れていたのと同時に、彼のナレーションに負うところが大きいと思います。彼の声はすばらしい宝物でした。

「ジェットストリーム」が実際に始まったのが1967年、以来27年もの長いあいだ城さんはみなさんに話しかけていたことになりましたが、こうしてCDでいつでも城さんの声が聴けるのは、とてもすばらしいことです。

(TOKYO FM マルチメディア事業局 デジタル音声制作部長)

ARTISTS' PROFILE

アーティスト・プロフィール

【宮本 啓】

●アーサー・フィードラー

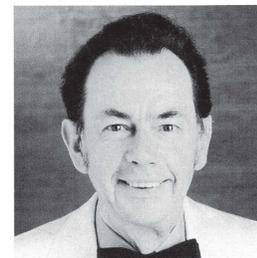
1894年アメリカ・ボストン生まれ。1979年死去。高卒後渡欧し、ベルリン音楽院に留学しました。14年に帰国し、ボストン交響楽団のヴィオラ奏者になり、25年にボストン・シンフォニエッタというオーケストラ指揮者に任命され、30年にそれがボストン・ポップス・オーケストラとして正式にスタートしたときから亡くなるまで、一貫して指揮を続けました。クラシックとポピュラーの架け橋になったその功績は大です。



アーサー・フィードラー

●アルフレッド・ハウゼ

1921年ドイツ・ベストファーレン生まれ。ワイマール音楽院でヴァイオリニストとして勉強中、学費稼ぎのアルバイトでダンス・バンドで働くうちにポピュラー音楽の魅力に取りつかれ、クラシックを捨てました。42年に自分の楽団を結成、一度それを“つぶし”ましたが、48年にアルフレッド・ハウゼ・タンゴ・オーケストラを本格的にスタートさせ、以来世界一のタンゴ・オーケストラのリーダーとして世界に君臨しています。



アルフレッド・ハウゼ

●アンドレ・パウアー

1945年スイス・チューリヒ生まれ。オーケストラの首席クラリネット奏者を父親にもち、オペラの合唱指揮者としてスタート。現在はウィーンのアン・デア・ウィーン劇場の音楽監督を務め、作・編曲者、指揮者として活躍しています。85年「ジェットストリーム」の番組5000回を記念してジェットストリーム・オーケストラを結成、このセットの各CD最後に収録されている「夢幻飛行」をはじめ、優雅な雰囲気をもった厚みのあるサウンドで、イージー・リスニング界に新しいイメージを提供しました。



エドムンド・ロス

●アントン・カラス

1906年オーストリア・ウィーン生まれ。18歳のときから自国の民俗楽器ツィターを弾き始めました。49年、イギリスの映画撮影隊がウィーンへロケに来たとき、監督のキャロル・リードがカラスのツィターを耳にし、その映画の音楽を即決したといわれます。それが映画史に残る『第三の男』でした。カラスも楽器もこれによって一躍有名になり、いまだに愛好者があとをたちません。62年に初来日、85年に死去。

●エドムンド・ロス

1910年ベネズエラ・カラカス生まれ。ベネズエラ陸軍士官学校の軍楽隊に入り、打楽器をマスター。除隊後ベネズエラ国立交響楽団のティンパニ奏者になりました。37年に渡英し、ロンドン王立音楽学校に入学。正式に作・編曲を勉強したのち、40年に自分のバンドをつくりました。徐々に人数を増やし、ラテン・リズムの楽しさを世界に広めた功績は大です。



カーメン・キャバレロ

●カーメン・キャバレロ

1913年アメリカ・ニューヨーク生まれ。イタリア系。クラシック・ピアニストを目指したもののアドリブの魅力にはまってポピュラー畑へ。39年に自分のコンボをつくり、ホテル出演、ラジオ、映画への出演などで人気者になっていきました。「ショパンのポロネーズ」と「トゥ・ラヴ・アゲイン」の2大ヒット曲によってムード・ピアニストのイメージが強いのですが、基本的にはジャズの人ともいえます。62年以来ほぼ毎年来日。89年死去。

●クレバノフ・ストリングス

1917年アメリカ・シカゴ生まれのハーマン・クレバノフが50年代に結成したストリングス主体のムード・オーケストラです。クレバノフ自身、シカゴ・シンフォニーのヴァイオリン奏者でしたから、ストリングスを生かしたオーケストラ・ムードはお手のものといえます。また、ロシアからの移民の子という「血」も、ヴァイオリン＝ストリングス・ムードの見事な仕上がりに一役買っているといえるのではないのでしょうか。

●グレン・ミラー

1904年アメリカ・アイオワ州生まれ。44年第二次世界大戦中にイギリスからフランスへ向かう途中、飛行機もろとも英仏海峡の霧の中に消えてしまいました。26年のベン・ボラック楽団のトロンボーン奏者兼編曲者としてスタートし、37年に自分の楽団を発足させ、そのスウィートなサウンドは40年代最大の人気を誇りました。グレン亡き後もバンドはリーダーを代えて存続、現在も毎年のように来日しています。

●ザンフィル

1941年ルーマニア・ゲイスティ生まれ。アコーディオンの勉強のためにに入った音楽学校の先生にすすめられるかたちで、パンフルートを手がけ始め、みるみる頭角を現しました。60年代末頃からパンフルート奏者としてだけでなく、楽団の指揮、指導も始めるようになりました。70年から3回にわたって行ったフランス公演で認められ、彼の名は一躍メジャーなものになりました。80年に初来日、パンフルート・ブームが起こったものです。

●ジェームス・ラスト

1929年ドイツ・ブレーメン生まれ。46年にラジオ・プレーメン・ダンス・オーケストラのベーシストとして音楽の道に入り、やがて作・編曲などでも売れ始めます。カテリーナ・バレンテ、ウェルナー・ミュラーといった一流どころの強力な後押しもありました。65年からジェームス・ラスト・オーケストラとしてのレコードが売り出され、中でも「ノン・ストップ・ダンシング」シリーズはベストセラーになりました。75年のダンサブルな日本公演も忘れられません。

●ジュリアン・ロイド・ウェッパ

1951年イギリス・ロンドン生まれ。人気作曲家アンドリュウ・ロイド・ウェッパ



グレン・ミラー



ザンフィル



ジェームス・ラスト



ジュリアン・ロイド・ウェッパ

は3歳違いの実兄です。ウェッパ兄弟の父は作曲家、母はピアノ教師で、ふたりとも幼い頃から音楽が友達という環境で育ちました。兄は作曲、弟はチェリスト、ともに一流の芸術家になった今日でもふたりの仲はよく、弟はしばしば兄の曲を演奏し、兄は弟に曲を贈ったりしているといえます。

●ジョン・ウィリアムズ

1932年アメリカ・ニューヨーク生まれ。50年代半ばから映画撮影所のスタジオ・オーケストラのピアニストになり、音楽生活のスタートを切りました。60年代になって映画音楽の作曲家として独り立ちし、『ジョーズ』『スター・ウォーズ』他傑作を連発、ジョン・ウィリアムズ時代は現在もまだ続いています。79年から10年余、アーサー・フィードラーの後を受けてボストン・ポップス・オーケストラの音楽監督、常任指揮者をつとめました。

●ジョン・バリー

1933年イギリス・ヨーク州生まれ。EMIレコードのディレクターとしてクリフ・リチャードをスターにしたことは有名です。57年からTVの、58年からは映画の音楽をてがけ始め、57年結成のジョン・バリー・セブンで自作曲の演奏も行うようになりました。74年と75年に来日、パンチの効いたイージー・リスニング風サウンドが新鮮でした。

●スタンリー・ブラック

1913年イギリス・ロンドン生まれ。7歳から始めたピアノの腕はぐんぐん上達、周囲の人々は「神童」とよんだといえます。しかし、10代半ばから興味を持ち出したジャズの方へ進み、クラシックのピアニストにはなりません。43年に自分のバンド、スタンリー・ブラックとアメリカン・リズムスを発足、ラテン・リズムを基調にした甘く、センスのよいサウンドは、従来のムード音楽とは一味違い、多くのファンが付きましました。映画音楽の作曲などでも活躍しています。

●デヴィッド・ローズ

1910年イギリス・ロンドン生まれ。4歳のとき家族揃ってアメリカに移住し、以後アメリカ人として人生を全うしました。ダンス・ミュージック専門のシカゴ・オーケストラのピアニストとしてプロの第一歩を踏み出し、やがてロサンゼルスへ出て放送局のスタッフとして活躍。TV「レッド・スケルトン・ショー」の音楽監督、自分の楽団によるレコード『ザ・ストリッパー』のヒットなどで人気を得ました。90年死去。

●ナルシソ・イエベス

1927年スペイン・ロルカ生まれ。ほとんど独学でギターをマスター、47年プロデビューを果たしました。アンドレス・セゴビアの後継者といわれるほど卓越したテクニックで、最高のギタリストであることは、だれもが認めることでしょう。52年にルネ・クレマン監督のフランス映画『禁じられた遊び』のテーマ曲を手がけてポピュラーな人気も獲得しました。60年を皮切りに来日公演もたびたび



ジョン・バリー



スタンリー・ブラック



デヴィッド・ローズ



ナルシソ・イエベス

行われています。

●ハーブ・アルバート

1935年（37年説も）アメリカ・カリフォルニア州生まれ。8歳でトランペットを吹き始め、長じてサンフランシスコ交響楽団の一員に。兵役をはさみ、ポピュラー音楽に関心が移り、A & Rマンになり、62年にレコード宣伝マン、ジェリー・モスとA & Mレコードを発足させました。自分のレコーディングもさることながら、同社から次々にヒット曲が生まれ、プロデューサー、社長としても大成功を取めたのです。

●ハリー・ジェームス

1916年アメリカ・ジョージア州生まれ。サーカス芸人の両親をもったせいか、生まれながらの芸人志望。父から手ほどきを受けたトランペットの腕は凄く、20歳前にはすでにプロとして認められていました。37年から在席したベニー・グッドマン楽団で彼の才能と人気は大輪の花を咲かせました。40年代に入ってからストリングスとの共演で、ムード音楽のジャンルでも新境地を開拓したことも忘れられません。83年に死去。

●ビリー・ヴォーン

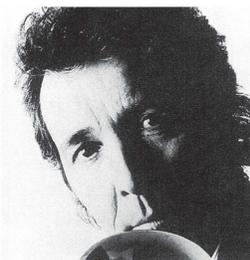
1919年アメリカ・ケンタッキー州生まれ。52年に学友たちとヴォーカル・クワルテット、ヒルトッパーズを結成しました。その縁でドット・レコードに入社し、編曲、プロデュース両面で活躍、バット・ブーンの「砂に書いたラブleter」を生み出したりしました。一方で自分の楽団もスタートさせ、「波路はるかに」で有名になりました。66年以来毎年のように日本公演を行った親日家ですが、91年にガンのために永眠しました。

●フランク・チャックスフィールド

1914年イギリス・バトル生まれ。少年時代に教会のオルガン弾きだった体験を生かし、30年代後半からプロの音楽家になりました。放送の編曲者を経て40年代後半に自分の楽団をつくり、レコーディングにステージに大活躍しました。ジョージ・メラクリーノあたりから始まったイギリスの正統派ムード・オーケストラの流れを継承し、発展させた功績は、マントヴァーニとともに高く評価されてしかるべきでしょう。

●ベルト・ケンプフェルト

1923年ドイツ・ハンブルグ生まれ。自分のオーケストラを率いてポピュラー音楽界に登場してきたのは48年のことでした。50年代後半から本格的な活動期に入り、トランペットをフィーチャーした「真夜中のブルース」「愛の誓い」などの曲がヒットしたため、ベルトはトランペットをてがける、と誤解されたこともありました。正しくはピアノとクラリネットを少々、あとは作・編曲、指揮に徹しました。80年に死去。



ハーブ・アルバート



ビリー・ヴォーン



フランク・チャックスフィールド



ベルト・ケンプフェルト

●ポール・モーリア

1925年フランス・マルセイユ生まれ。マルセイユ音楽院卒業後パリへ出て、編曲、伴奏ピアニストなどで名を上げ、67年に歌手ヴィッキーが歌った「恋はみずいろ」を、翌年編曲して自分のオーケストラでレコーディングし、欧米で大ヒットしてその存在は広く知られるようになりました。精力的なレコーディングとステージ（初来日は69年）で、イージー・リスニング時代を築きました。98年に第一線を引退。

●マントヴァーニ

1905年イタリア・ヴェニス生まれ。1980年死去。4歳のとき家族とともに渡英し、そのままイギリス人として生涯を終えます。16歳でプロのヴァイオリニストとしてスタート、やがてポピュラー畑に移り、小編成のタンゴ・バンドを、次いで51年に大編成のオーケストラを結成、ストリングスの魅力を前面に押し出し（いわゆるカスケイディング・ストリングス）、一世を風靡しました。リーダーの没後とも楽団は存続しています。

●ミッシェル・ルグラン

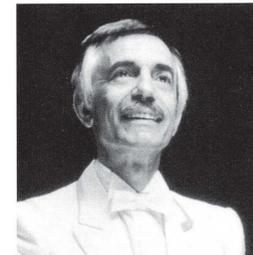
1932年フランス・パリ生まれ。パリ音楽院卒業後の21歳のとき、歌手の伴奏ピアニストとして音楽の道に入りました。ジャズ（系）のプレイヤーとの付き合いが多く、58年に発表したアルバム『ルグラン・ジャズ』は彼のジャズ・センスの素晴らしさを証明しています。TV、映画の音楽も多く、中でもシネ・ミュージカル『シェルブールの雨傘』の音楽は、ジャンルを問わずてはやされています。オーケストラ・リーダーとしても有名。

●ロニー・アルドリッチ

イギリス・ケント州生まれ（生年月日は未公開）。ギルドホール音楽院を卒業、いろいろな楽器の中から“商売になりそうな”ピアノを選び、レコーディング・ピアニストになったと自認しています。通常のピアノ演奏を2度録音、それにオーケストラの音を重ねて仕上げる方法で画期的な“ロニー・アルドリッチの2台のピアノとオーケストラ”のサウンドを確立しました。ステレオと器材の進化とを巧みに利用した「頭脳」のユニークさ！

●フランク・プウルセル

1913年フランス・マルセイユ生まれ。マルセイユとパリの両音楽院を卒業後、マルセイユ・オペラ座のヴァイオリニストとして腕を磨きました。29歳のとき、人気歌手リュシエンヌ・ボワイエにスカウトされ、8年間彼女の伴奏を務めました。52年に自分のオーケストラを結成し、ストリングスの美しさを生かした品のある演奏スタイルで一世を風靡しました。2000年に亡くなりましたが、プウルセルの演奏は時代を超えて音楽ファンを魅了し続けています。



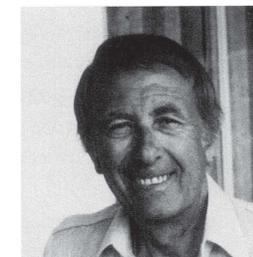
ポール・モーリア



マントヴァーニ



ミッシェル・ルグラン



フランク・プウルセル

	CD番号/解説ページ
[あ] 愛情物語	3/13
愛と青春の旅立ち	1/8
愛のオルゴール	3/12
愛のプレリュード	1/9
愛のワルツ	1/9
愛はきらめきの中に	8/25
愛よ永遠に	5/17
アイ・ラブ・パリ	2/11
蒼い影	8/24
碧空	3/13
朝日のようにさわやかに	1/9
アメイジング・グレイス	7/23
雨にぬれても	6/18
アリベデルチ・ローマ	10/29
ある愛の詩	4/15
アルゼンチンよ泣かないで	10/29
アルピノーニのアダージョ	5/17
アルフィー	8/24
アンチェインド・メロディ	8/24
[い] イエスタディ	7/23
イエスタディ・ワンス・モア	7/23
いそしぎ	9/26
イパネマの娘	9/27
イン・ザ・ムード	8/24
イン・シャラー	2/11
[え] エーゲ海の真珠	10/28
エストレリータ	9/27
エデンの東	6/19
エマニエル夫人	2/11
[お] 奥様お手をどうぞ	3/13
男と女	4/14
思い出のサンフランシスコ	10/29
おもいでで夏	4/15
オリーブの首飾り	2/11
オンブラ・マイ・フ	5/17
[か] 学生王子のセレナーデ	5/17
風と共に去りぬ	6/19
風のささやき	2/11

	CD番号/解説ページ
悲しみは星影とともに	4/15
カナダの夕陽	10/29
枯葉	2/10
[き] 君住む街角	3/12
禁じられた遊び	4/15
[く] グラナダ	10/29
グリーン・アイズ	9/27
グリーンスリーブズ	5/16
紅の翼	1/9
[け] 煙が目にしみる	6/19
[こ] 恋のアランフェス	5/17
恋はみずいろ	2/10
恋人と呼ばせて	1/8
今宵の君は	7/23
ゴッドファーザーの愛のテーマ	6/18
この素晴らしい世界	1/9
この胸のときめきを	1/9
コンドルは飛んでいく	6/19
[さ] サウンド・オブ・サイレンス	6/18
酒とばらの日々	6/19
サマータイム	8/25
サンタマリアの祈り	6/19
サン・ホセへの道	10/29
[し] 四月の恋	1/9
詩人の魂	2/11
ジス・ガイ	8/25
死ぬほど愛して	4/15
シバの女王	4/14
シャルメーヌ	2/11
シャレード	6/19
白い恋人たち	4/14
白い渚のブルース	9/26
真珠の首飾り	8/24
[す] スカポロー・フェア	6/18
スターダスト	7/22
砂に書いたラヴレター	9/27
スリーピー・ラグーン	8/25
[せ] 青春の光と影	6/19

	CD番号/解説ページ
セプテンバー・ソング	1/9
[そ] ソー・イン・ラブ	6/19
そよ風のメヌエット	2/10
[た] 第三の男	4/15
タイスの瞑想曲	5/16
太陽がいっぱい	4/15
誰かが誰かを恋してる	8/25
[ち] 小さな喫茶店	3/13
チキチータ	3/13
茶色の小瓶	8/24
[つ] 追憶	7/23
月の光	5/17
[て] ディア・ハンターのカヴァティナ	7/23
[と] トゥナイト	8/25
時の過ぎゆくまに	3/13
ドリゴのセレナーデ	5/17
[な] 夏の日の恋	9/26
波路はるかに	9/27
[に] 虹の彼方に	1/9
[は] 白鳥	5/17
80日間世界一周	1/9
パッヘルベルのカノン	5/17
ばら色の人生	2/11
パリのあやつり人形	10/28
パリのお嬢さん	2/11
パリの空の下	2/10
パリ・ハイ	9/27
[ひ] ひき潮	9/26
一晩中踊れたら	1/8
[ふ] フィーリング	7/23
二人でお茶を	3/12
ふたりの誓い	6/19
ブーベの恋人	4/15
フライ・ミー・トゥー・ザ・ムーン	7/23
ブラジル	10/29
ブルー・ハワイ	9/27
[へ] ベニスの夏の日	10/28
[ほ] 星に願いを	1/8

	CD番号/解説ページ
慕情	4/15
ホフマンの舟唄	5/17
ポルトガルの四月	10/29
[ま] マリア	8/25
マルタ島の砂	9/27
[み] みじかくも美しく燃え	5/16
ミズーリー・ワルツ	10/29
ミスター・サマータイム	3/13
ミスター・ロンリー	1-10/8
ミスティ	7/23
ミッシェル	3/12
蜜の味	9/27
魅惑の宵	9/27
魅惑のワルツ	7/23
[む] 夢幻飛行	1-10/9
ムーラン・ルージュの歌	2/11
ムーン・リヴァー	7/22
[め] メモリー	7/23
メロディ・フェア	3/13
[も] モア	1/9
モナ・リザ	7/23
モンテカルロの一夜	10/28
[や] 野生のエルザ	6/19
[ゆ] 夕陽に赤い帆	9/27
ユーモレスク	5/16
[よ] 夜霧のしのび逢い	4/15
夜のストレンジャー	8/24
[ら] ライムライト	7/22
ラスト・タンゴ・イン・パリ	2/11
ラスト・ワルツ	3/13
ラヴ・ミー・テンダー	8/25
ラ・メール	3/13
ララのテーマ	4/15
[れ] レット・イット・ビー	3/13
[ろ] ロシアより愛をこめて	10/29
ロミオとジュリエットの愛のテーマ	4/14
ロンドン・デリーの歌	10/29
[わ] 別れの曲	5/17

JET STREAM ROMANTIC CRUISING

ジェットストリーム

別冊解説書



発売  エイベックス・マーケティング株式会社

 avex club

〒107-0062 東京都港区南青山3-1-31

制作 ユニバーサル ミュージック株式会社

〒107-0052 東京都港区赤坂8-5-30

協力  日本航空 / TOKYO FM

編集・デザイン ラグタイム

印刷・製本 有限会社 サイクル

JET STREAM

発売:  avex club

制作: ユニバーサル ミュージック株式会社 *